

銀友

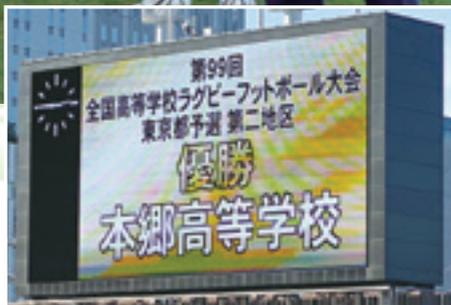
No.49

2020.05

本郷学園同窓会



2年連続、11回目の花園出場!!



**2020年度の定期総会は
新型コロナウイルス
感染拡大のため中止します**

<http://本郷学園同窓会.jp> & <http://www.hongo-gd.net>

学園より「教育振興資金」ご寄付のお願い

同窓会会員の皆様には日頃より学園運営に多大なるご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。お蔭様で生徒たちは、授業、部活のみならず、学内外行事にも主体的に参加するなど、多方面に亘って積極的に活動を続けております。

さて、学園では、2号館をはじめとした校舎の新・改築、グラウンド人工芝改修などが一段落し、現在はICT環境の整備・充実、図書室環境・書籍の充実などを進めており、また、令和4年に迎える学園創立100周年に向けての記念行事の考案や資金の準備なども続けております。

ところで、お願いを致します「教育振興資金」へのご寄付ですが、学園の教育施設や備品の充実、生徒活動の支援など、教育内容の充実に用途を限定したご寄付の制度です。このご寄付は従前より継続してお願いしているものですが、特に金額の制限はございませんので、趣旨にご賛同いただければぜひご協力をお願いいたします。

●お申し込み方法

以下の①、②のいずれかの方法でお申し込みください。

① 電話又はFaxで学園企画管理部(旧事務室)まで「寄付申込書」をご請求ください。

- ゆうちょ銀行(郵便局)払込取扱票をお送り致します。
- 金額・必要事項をご記入の上、郵便局窓口又は、郵便局ATMにてお払込みください(払込手数料は当学園負担)。
- 払込取扱票は、寄付申込書を兼ねておりますので、お手数ですが、必要事項を漏れなくご記入ください。

担当: 学校法人本郷学園 企画管理部長 石田祐一、佐藤幸子

電話 03-3917-1456、 FAX 03-3917-0007

② 学園公式ホームページ(<http://www.hongo.ed.jp/>)のトップページからお申し込みください。

- 必要事項をご登録・送信いただいたのち、お払込み方法等の情報を学園よりメールにてお知らせ致します。

教育振興資金ご寄付の入金確認後、「払込金受領書」、「特定公益増進法人であることの証明書(写)」、「税額控除に係る証明書(写)*」などをお送りいたします。

* 税法上の寄付金控除手続きの際にご使用いただけます。

卒業生の皆様へご協力の御願い

本郷学園は2022年(令和4年)に創立100周年を迎えます。

現在、100周年の企画にむけて、学園の歴史にかかわる資料や情報の収集を行っております。

つきましては、卒業生の皆様方から学園生活にまつわる品物や情報のご提供・ご協力を賜りたく御願い申し上げます。

本郷生の学園生活も時代とともに変化してきておりますので、ごくありふれた物と思える品々でも、今日では貴重な資料となるものが多くございます。特に生徒の立場で使用された物や時代の古い物等は学園側には保存されておられません。例えば以下のような品物を探しております。

- 学帽・学生服や運動着、学用品や教材類
- 部活動や同好会活動などの部誌、記念品など
- 学校行事のしおりなどの印刷物や写真類
- 学校や生徒を紹介した新聞・雑誌等の掲載記事
- 音声や映像(カセットテープ、8ミリ、ビデオテープ…)
- 卒業生の著作物
- 旧制中学時代(戦前・戦中)の品物や卒業証書など
- 卒業アルバム(特に昭和20年代までは欠本が多く、探しております)

また、学園にまつわるエピソード・思い出話などの情報(先生・級友との思い出、学園生活や駒込・巣鴨の様子…)もお寄せ下さい。

資料のご提供の方法は、必ずしもご寄贈の形ではなくとも結構です。一旦お借りしてデジタルデータ等の複写・複製をとり、後日原本を返却させて頂く方法も行っております。各資料に応じて個人情報保護の対応も致します。

お問い合わせ、連絡先は以下の通りです。是非ともご協力くださいますようお願い申し上げます。

本郷学園 校史編纂室

担当 齋藤悦正

〒170-0003 東京都豊島区駒込4-11-1

03-3917-1456(代) E-mail y-saito@hongo.ed.jp

p3
いあごの輪

- 本郷学園同窓会 会長
1956年〓昭和31年卒業(高校8回生)
南谷 修

- 学校法人本郷学園 理事長
松平 頼昌

p5
投稿

- 本郷高校山岳部OB会(本郷岳友会)
マッキンリー峰遠征の思い出

- 1971年〓昭和46年卒業(高校23回生)
押田 松児

- 人の心、社会を考える楽しさを教わり
今の自分がある

- 1988年〓昭和63年卒業(高校40回生)
漆原 隆浩

p14
「本郷の先輩たち」

- 1960年〓昭和35年卒業(高校12回生)
齊藤 義信

- 1981年〓昭和56年卒業(高校33回生)
川本 俊介

- 1990年〓平成2年卒業(高校42回生)
塩家 吹雪

- 1957年〓昭和32年卒業(高校9回生)
江原 森太郎

- 1969年〓昭和44年卒業(高校21回生)
杉崎 信雄

p18
日本の学校体操の父、永井道明

p20
永井体育館

p22
同期の輪

「はたちの集い」ほか

p27
トピック

- 第七回本郷医師の会

- 1996年〓平成8年卒業(高校48回生)
杉下 和行
本郷医師の会幹事長

p28
OB会通信

p30
2020年度事業計画・予算案

p32
2019年度事業・決算報告

p34
2019年度定期総会報告

- 1966年〓昭和41年卒業(高校18回生)
山際 幸雄

p36
2019年度表彰報告

p38
本郷学園同窓会役員(案)

p39
学園だより

- 2020年春大学入学試験合格実績

p40
本郷学園同窓会会則

p42
本郷学園同窓会会費納入者一覧

p45
計報

● ごあいさつ

ごあいさつ



本郷学園同窓会
会長

南谷 修

1956年=昭和31年卒業
高校8回生

同窓会の皆様、日頃より会の運営にご理解、ご協力を頂き、誠にありがとうございます。

今年に入り、新型コロナウイルスの感染が世界に広がり、都市の閉鎖がはじまり、国の閉鎖となり、国際的閉鎖を引きおこし、経済の停滞も大きな痛手となっております。皆様におかれましては、充分に留意なされて、お過ごしいただきたいと存じます。

本郷学園は、本郷中学として1922年、大正11年に着工し、翌年の1923年、大正12年に開校いたしました。2022年、令和4年に創立100周年をむかえます。学園としての100周年記念行事の方針に合わせて、協力するよう努めております。記念行事の詳細はまだ

聞いておりませんが、皆様と共に支えて参りましょう。よろしく、お願い申し上げます。

学園は、新型コロナウイルスの影響をうけ、3月に入り休校し卒業式は教員と生徒、入学式も来賓なしで人員を絞り簡素化していく方針を早めに決めて、行っております。

本年度は、中高6年の一貫教育となるため、高校最後の入試が行なわれ、中学は増員の入試も行なわれました。いよいよ完全中高一貫校のはじまりです。新しい楽しみと期待がはじまりました。

生徒の活躍は、2年連続で花園に出るラグビー部、先輩の研究を受け継ぎ課題を進める科学部、企業への提案、論文発表等の社会部、そして地学部、囲碁将棋部、ピアノの連弾など幅広い分野で全国、関東、都の大会で賞を受けております。大変に嬉しい限りです。今年も、オリンピックも延期となり、生徒の活躍の場となる大会も未だに不明で心配しております。

同窓会の活動も運営委員会を3、4月と自粛し中止をし、4月の理事会も中止となり、従って6月の総

会も中止せざるを得ず、はたちの集いも延期となりました。夏以降の本郷祭などに皆様と共に頑張つて参りましょう。

世界情勢の変化が大きく、経済の落込みは予想以上であり更なる変化が生じるであろうと言われております。各国とも自国だけではなくにもならない環境下となっている他、自然界、特に気象の変化は、過去のデータでは判断が出来ないようなことが、多く起きている現状となりました。

このような時代ではありますが、本郷で育ち本郷を支えた皆様、更に絆を大切にし、人の繋がりを財産と考えるようにいたしましょう。

どうか皆様、お元気でこの時間を大切にしましょう。見方を変えれば贅沢な時間を与えられたのですから。創立100周年に向けて、皆様と共に学園に協力いたしましょう。皆様の益々のご活躍、ご健勝をお祈り申し上げます。これからも、同窓会をよろしくお願いいたします。

ごあいさつ



学校法人 本郷学園
理事長

松平 頼昌

学園も、大正、昭和、平成を駆け抜け、昨年5月に令和という新しい時代に入りました。同窓会の皆様におかれましては、学園の為に多大なご指導とご支援を頂いておりますこと、深く感謝申し上げます。学園としましては、いよいよ100周年を再来年に控えて、同窓会の皆様方と一緒に祝いが出来ます様、諸々準備を進めているところでございます。100周年は、通過点ではありますが、更次の100年を目指して行けますようご声援の程宜しくお願致します。

ございました。昨年の暮れにはラグビー部が2年連続で全国大会に進出致しましたが、その際に同窓生からの多大なご支援とご声援を賜りましたこと改めて御礼申し上げます。他には、囲碁将棋部、科学部、社会部、地学部など日本のみならず、留学に世界へ飛び出す生徒もおり、学校としても生徒の活躍を嬉しく思っております。

一方で、年明け穏やかな日々から一転して新型コロナウイルスによる影響が学園全体に及ぶこととなり、誠に残念ながら3月に入り休校となりました。卒業式は卒業生と教員のみ限定させて頂き、保護者へ式典をご披露出来ずとも申し訳ない思いで卒業生を送ることとなりました。卒業生保護者の方々は、同窓会長、校長、父母の会長と私より、各ご家庭に別途お祝いの手紙を送らせて頂きましたこともご報告させて頂きます。まだまだウィルスの蔓延は収まりませんが、同窓会の皆様におかれまして

も、安全安心を心掛け御自愛頂けましたら幸いです。学校運営も多くの変更がありますが、教職員一致団結できる時期として捉え、新しい発想が生まれることを期待しております。

令和2年度は、中学の募集人数を1クラス増やし301名の新入生を迎え、高等学校に於いては最後の高校入試を経て325名の入学を予定しております。もみじ幼稚園は37名の新入園児を迎えます。中高合わせて在学は1,781名、幼稚園は129名、教職員合わせますと2,000名以上が毎日この駒込の地に通っております。完全中高一貫校としてのスタートを切る年でもあります。これから学校が新しく変わっていくことを楽しみにしております。

学園として進むべき道に迷いはありません。今後とも同窓会の学園へのご指導、ご鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。

本郷高校山岳部OB会

(本郷岳友会)

マッキンリー峰遠征の思い出

押田松児

1971年=昭和46年卒業
(高校23回生)

本郷岳友会の発足

私たち本郷岳友会は本郷高校山岳部OB会を母体として活動しています。その母体の本郷高校山岳部がいつ頃から活動を開始したのかは正確にはわかりません。戦前の旧制本郷中学の頃から登山をしていた生徒がいたようで、戦時中は行軍部と称して登山をしたらしいのです。残された資料では昭和24年頃から山岳部として活動していたのは、はつきりとしています。その頃はOBになつてからも登山を続ける人は、社会人山岳会などで活動していました。

昭和39年頃に、高校を卒業しても同じ仲間です登山活動を続け、また後輩の指導育成をすることを目的とした山岳部のOB会が本郷岳友会という名前で結成されたのです。

私は昭和43年に本郷高校に入學し、部員数は少なかったのですが山岳部に入りました。在学中は5月の連休には北アルプス穂高岳合宿、夏の合宿では南アルプス縦走、そして晩秋に穂高岳合宿があり、冬には八ヶ岳合宿などを行いました。その合間に丹沢での沢登り、近郊の岩場での岩登り訓練などをOBの補佐のもと精力的に活動していました。

一方、OB会は社会人山岳会として劔岳、穂高岳、谷川岳などの岩場を登攀し着実に登山の力をつけてきました。

「本郷ルート」の開拓を計画

登山実績が上がるとともに、国内登山から次第に海外登山へと目が向き、いつの日か我々も、と夢が膨らんできました。昭和47年頃、高野和也(高校18回生)からアメリ

カ、アラスカ州にあるマッキンリー山(6,194m)写真。現在はデナリ山と呼ばれています(の南壁に、未踏のルートがあるので2年後を目標に登りたいとの提案があり、高野と浪川七五朗(高校22回生)がアラスカ州政府事務所に行き、いろいろと情報を集め始めました。当初は個人的な計画でしたが仲間が増



え、昭和49年は本郷岳友会発足から10年の節目に当たるので、OB会の計画として何かしたい、という思いも強くなってきました。今のように入ターネットや電子メールなどに時代でしたので現地とのやり取りはすべて手紙です。また現地での情報も、マッキンリーに行った登山隊の方々に会って入手しました。

そしてマッキンリーの南壁未踏ルートを初登攀し、「本郷ルート」を開拓しようと、みんなの気持ちが高まると、次に登山のための交通、装備、食料、梱包運送、登山許可など、準備すべき事項がうすうす見えてきます。

資金問題もクリアーし夢が現実

この頃から、海外パッケージツアーが旅行社の企画で始まり、個人旅行が手軽になってきました。とはいえ日本円は固定為替で1ドル＝300円で換金され、かつ持出しドルの上限が決められていました。海外遠征など若い我々には高嶺の花で、当初は、どんな方策があるのか皆目見当もつきませんでした。しか

し、当たって砕けるの心意気で突き進みました。

遠征隊はほとんどが20歳代前半で、体力と情熱はあるがお金はない、といった状況です。必要な装備や食料などもリストアップされ、遠征への熱意は高くなってきました。しかし資金面ではOB会の寄付金だけではまかないきれません。

資金面での行き詰まりが見えた時、本郷高校同窓会からの寄付を募ることを考えました。どこからか入手した同窓会会員名簿を頼りに不特定に資金援助の手紙を送付しました。これは同窓会の承諾を得たものでなく勝手に送りつけたものなので、やがて同窓会内部で問題になり呼出しを受けることになったのです。この身勝手な行動にお叱りを受けましたが、話を聞いていただき、この件に賛同してくれることになりました。

また学校側も理解してくれ、松平頼明校長をはじめ教職員の方々からの寄付をいただくことができました。こうしてなんとか資金の問題もクリアーし、まさに夢が現

実となる瞬間でした。

さっそくアラスカ州事務所に登山申請をし、氷河まで運んでくれるセーナ機のパイロットなども具体的な連絡を取り合いました。海外登山を扱う旅行社とも日程を決め、大洋漁業から缶詰など格安で分けていただき、レンゴウで氷河の水に濡れても大丈夫な特別な梱包用ダンボール箱をつくって寄付していただきました。こうして準備が整い登山計画に合わせて食料や装備を用意すると総量で500kg位になりました。出発前にメンバーは校長のお宅に招待を受け、さらに学校の朝礼で遠征の話をするようにいわれ、そのおりに在校生から応援の言葉をもらいました。

未踏ルートの初登攀に挑む

隊のメンバーは浪川と渡辺仁(高校15回生)、斉藤嘉嗣(同18回生)、小林巖、押田松兒(同23回生)、松浦孝之(同24回生)です(写真)。この6名で入山から下山まで、30日間近く共に行動することになります。残念なことには計画を当初立案した高野



は、前年の冬に登攀訓練のために氷爆を登りに行って体調を崩し、その後入院してしまい回復していませんので、参加を取りやめたのです。

この遠征の目的は、南壁中央稜のウエスタンリブにつながる未踏ルートで、これを征すれば初登攀となります。マッキンリー南面からカヒルトナ氷河へ落ち込んでいる支稜線で、これを氷河から登る計画です。

ランディングポイント（着陸点）から荷物を氷河上のデポポイントまで

何日かかけて往復して運び、運び終わったらその先に第1キャンプをつくり、またデポポイントから第1キャンプへ往復して荷揚げし、未踏ルート下に第2キャンプをつくり、さらに第3キャンプを経て尾根上に最後にアタックキャンプを設営し頂上を狙う計画です。これは時間と労力、それに多量な物資が必要となる登り方ですが、確実に前進できるメリットがあります。

マッキンリーには日本から2つの大雪山岳部と三重県の山岳会が行くことになっており、これらのメンバーと同じ飛行機に団体扱いの割引料金で乗ることにしました。ただ、働いている人たちは登山にギリギリの日数の休暇をなんとか取った状況でしたので、アラスカに着いたらすぐに登山基地のタルキートナまで移動しないと日数が足りなくなります。事前にアンカレッジで食料や燃料、現地調達した装備などを揃えタルキートナまで運んでおく必要があります。そこで本郷岳友会から先発メンバーを出し、4つの遠征隊の荷物を

運ぶことにしました。その際の条件として、先発者の飛行機代が普通切符になってしまいうので、団体割引料金との差額を他の3隊にも負担してもらうことにしました。

アラスカの雄大な景色

昭和49年6月22日、浪川が先発として単身で、日本から船便で送った装備品の受取り、現地での買出しと後から来る本隊の受入れ準備のために、アラスカへ出発しました。資金難なのでホテル代はありません。現地の毛皮商人の倉庫に泊めてもらったり、アンカレッジの小さな公園に簡易テントで野宿し、エスキモーの路上生活者に間違われたりしながら、買出しや荷物の運搬をしたのです。

6月30日、本隊がアンカレッジ空港に到着すると浪川が出迎えてくれ、全て手配は整っている、と報告を受けました。この時、浪川から二人の韓国系アメリカ人を紹介されました。毛皮商のジャック・ジャクソン氏で、現地で知り合いになり、倉庫に泊めてくれたり、いろいろと面倒を見てもらったそうです。彼にあいさつをし

てその朝、登山基地になるタルキートナへすぐに出発しました。

タルキートナはアンカレッジから鉄道で180kmの距離、約3時間のところにある田舎町で、マッキンリー登山の基地となるアラスカ開拓史を思わす町でした。氷河パイロットのハドソン氏と翌日の飛行について打合わせをし、その日は彼の納屋に泊まりました。

7月1日、校庭のような何も無い広場だけの飛行場から人と大量の荷物を載せ、氷河着陸用のソリを着けたセスナ機はエンジンを唸らせ飛び立ちました。眼下には広大な原生林と銀色に光る川が網の目のように走っている。この雄大な景色はまさにアラスカならではのものです。マッキンリー山に近づいて来ると、そこは雪の世界で、長く白い氷河の中に目も覚めるようなゴバルトブルーの水溜まりが点在して、宝石のようでした。そして無数に見えるクレバスは、ここがいかに危険な場所か実感させられます。セスナは高度を落とし、カヒルトナ氷河の支流に

着陸。ここは標高約2,100mで、さっそくキャンプを設営し、登山の出発点としました。

このランディングポイント（着陸点）キャンプでは、ポーランド隊などがテントを張っていました。ポーランド隊は登頂してこのキャンプに戻って来たが、思ったより日数がかかり食料がなくなつたというのです。我々が持つてきた冷凍の牛肉でステーキを作り夕食をご馳走したら、こんなにうまいものを食わせてくれるのか、と感激してくれました。そんなこともあり、これからの長い山行を考えると感情が高まってきました。

荷を背負いスキーにシールを付けて、荷物の運搬のためデポポイントに向けて氷河を歩き出すと、この山の大きさを実感することができました。いくら歩いても先の見えない氷河、日の沈むことのない白夜など日本で経験できないことばかりでした。

雄大な氷河を目の前にして、ベースキャンプとデポポイントの間の荷揚げのために往復を繰り返し返している、いつこゝを抜けることができる

のか、と不安になってきます。また白夜なので眠るのにも苦勞させられます。氷も溶けるのでテントの底に水がたまり寝具など濡れてしまい厄介です。氷河はゆっくりと動き、日がたつことに形状が変わつてきます。雪に隠れた見えないクレバスは割れ目の中で大きく広がり、落ちると氷河の底まで止まらないので常にザイルは外せません。荷揚げの途中に同じ飛行機に乗っていた三重県の子岳会のメンバーが氷河を下つてきました。話を聞くと隊員の一人がクレバスに落ち、なんとか脱出できたが荷物を失ったので登頂を断念し、下山することでした。

氷河では降り注ぐ日ざしと、その強烈な照り返しで肌は音を立てて焼けるようです。広い氷河の中では日ざしを避ける場所がないので、ただ暑さを耐えるしかありません。そんな時にセスナ機が飛んで来て、新聞紙に包まれたアイスクリームを氷河上の我々に落として飛び去りました。そのアイスクリームのおいしさに感激しました。

通常ルートに変更

ようやく荷物の運搬が終わり、氷河上に南壁の登攀準備のためのデポポイントを設営しました。新ルートの登攀を目指して多くの登攀装備などを持つて来たのですが、氷壁の状況や時間などいろいろな判断で、残念ながらこのルートを諦め、通常ルート(ウエストバットレス)での山頂を目指すことに変更し、さらに氷河の上流へ進んでいきます。



氷河の終点(源流)ともいうべき3,000mを越えたカヒルトナパスにベースキャンプを設営しました(写真)。高度が上がれば酸素も薄くなり頭痛や吐き気などの高度障害が起こり、酸素不足で息切れに悩まされました。こんな高度でもカラスに食料を盗まれる予想外のアクシデントもありました。この先には雪崩が起きやすく風の強い、ウインディコーナーという場所があります。これを越えて、標高4,200m位の安全そうな所に第1キャンプをつくりました。ここでメキシコ隊は雪崩に会い、食料も流されやむなく登頂を断念したそうです。さらに高度を上げ5,200m付近のデナリパスの手前に第2キャンプを設営しました。

ここまで来ると景色は一変し、眼下にはこれまで歩いて来た氷河が見え、下から見上げていた周りの山々を眼下に見ることが出来ます。この景色の美しさと、ここまで登った達成感で体全体が喜びに満ち溢れていたのを感じました。ゆつくりではありましたが、もう頂上は手に入れた

と同様です。登頂への焦る気持ちも増すばかりでした。この頃から昼も短くなり夜10時頃からだんだんと暗くなり寒くなります。気温を計るとマイナス20度以下になる時もありました。ここから雪崩の起きやすい難所デナリパスを越えた鞍部に最終アタックキャンプを設営しました。頂上はすぐそこです。

細長い稜線を登り無事登頂

7月24日、薄い空気の中あえぎながらアタックキャンプを出発しました。一歩二歩足を進めると、なだらかな雪原の奥に最高点のポールが立っていました。最後の細長い稜線を登り切り6人全員が無事登頂(写真次頁)。ここまでの1年間で走馬灯のように思い返されました。あとは下山しかないと考えた時、終わりを迎えた寂しさを感じました。

下山の行程は立てていましたが、いざ下山となると思いは下界のことばかりになり、一刻も早く下りたくなりました。2日かかるところを1日で、といった具合で途中に残置した装備などを回収しながら昼夜を



通して歩き続けました。残して置いた着陸点のテントが見えた時は考える力すら残っていませんでした。無線でパイロットを呼出し迎えに来るよう依頼すると翌日迎えに来てくれました。

7月28日、タルキートナに着き地面に足を下ろすと土の柔らかな感触、むせ返る青草の匂いや音の響を感じ、長かった雪山生活が終わり町に戻って来たことを実感させられました。町の小さなホテルでシャワー

を浴び山の汗を流したのですが、お湯が出たのは一時で、すぐに冷水シャワーに変わってしまいました。それでも30日近く風呂に入らなかつた体には格別のものでした。

8月3日、いよいよ帰国です。多少アラスカ観光もしましたが、もとも資金は少ないし、個人の持ち合わせも少なかつたので、旅を自由に楽しむこともできませんでした。ただ下山してから少々、はめを外したこともあり手持ちのお金が少なくなり、もし帰りの飛行機で持帰り荷物の重量追加料金を取られたらどうしよう、と空港では内心ヒヤヒヤでした。幸い荷物の追加料金はなく、無事機上の人となり帰国できました。

この遠征は本郷高校山岳部OB会の記念すべき山行となり、山での生活は、つらく厳しいものでしたが、ここに至るまでの日々を振り返ると楽しい思い出ばかりです。

遠征を達成できたのも本郷高校、同窓会をはじめ多くの人たちの協力のおかげでした。帰国後、協力して

くださった方々にちゃんと山の報告やお礼をしたかは定かではありません。たぶん皆さまに礼を欠いたのではないかと思えます。若気の至りとお許しください。改めて、この場をお借りして、お礼申しあげます。

OB会の交流は今も

最後に本郷山岳部OBでは高校12回生の西岡克夫、同13回生の澤田憲晶、同15回生の野口靖、同16回生の清水磯五郎、同29回生の後藤欣仁らが、皆、偶然にも同じ富山県の劔岳で遭難死しております。特に後藤欣仁は現役での活動中の事故で、当時のOBとして斬鬼の念が湧いてきます。今でも夏になると有志が、この5名の名前が刻まれている劔岳の麓にある合同慰霊碑に行き、鎮魂の祈りをささげています。

一方、本郷高校山岳部は入部者の減少や顧問のなり手がいないため平成19年に廃部となりました。しかし山岳部OB会は、今でも同じ高校時代を過ごした仲間として交流し、山登りをほそぼそと続けていることをお伝えします。

人の心、社会を考える 楽しさを教わり 今の自分がある

漆原隆浩



1988年＝昭和63年卒業
(高校40回生)

私は東京都下水道局で働いています。そして世の中が良くなるような様々な活動をしております。そのことを面白がっていた原稿を書くこととなりまして。お誘いを受けて心の奥底で胸躍る感覚がありました。このところ心の奥に吹き出しそうなマダマのような衝動があり、その見えない衝動は何なのか。冴えない私を溶かして出てきそうな次の自分がいて、それは何なのか「書いてみることで考えてみる」と天から声が聞こえたような気がしたからです。

小学生の頃、年の離れた兄が大きなスピーカーで聴くフュージョン。カーステレオを聞きながらファミレスに行く大人のライフスタイルのカッコ良さ。大人の音楽に惹かれ引き込まれました。中学生になると良い音楽を多くの人に届けたいという思いから音響機器の技術者を目指します。そのよう

なことで創設されたばかりの理数科を受験しました。

音楽との出会いから技術者を夢見る

理数科の同級生は19名。正門側に来たばかりの綺麗な校舎の3階で3年間同じクラスという高校生活がスタートしました。中学では音響会社のシヨールームと塾に通う日々。そのため高校では部活をしようと考えていました。良い音、良い音楽のためには楽器ができたらい。じゃあ吹奏楽部か！という結論で見学しました。先輩からトランペットがないからと言われ有無もなく入部。3年生はいなくて2年生が数名。顧問の北岡先生の優しい熱血指導。音が出ない初心者なのにリードトランペットなので地獄でした。それでも上手くなりたくて土曜日音楽室でがむしやらに練習したのが懐かしいです。

大学は現役で家から近い総合大学

に行こうと決めました。中学生生活は楽しくなく、青春時代に勉強だけは嫌だと思つて人生勉強をやる戦略を立てました。高校に合格するとすぐにバイトを始めました。池袋のロイヤルドラムというジャズのライブハウスで濃厚な人生勉強を兼ねた活動資金稼ぎをしました。稼いだお金でクリフォードブラウンなどのスタンダードジャズのCDを買いました。命を削いで吐き出される音楽に涙しました。ジャズがやりたくなり池袋のビックバンドに入りました。練習後大人たちは必ず飲みに行きます。私も人生勉強のため同行しました。大人が仲間と酒を飲むことで良いチームを作っていることを勉強しました。今思えば良い人生勉強でした。

人生を変えた高校時代

生徒も個性的ですが先生も個性的でした。日本史の授業は2コマ連続で、授業が始まると先生が生徒に向かって「さあ、何だい！」と言います。生徒がボカンしている、「どうせ、お前ら2時間授業しても寝るだろ？だからお前らが今の社会で面白いと思うこと言ってみろ」って言うんです。生徒

が何か言おうと先生は自分の考えを熱く語るんです。喋り終わると「お前らどう考えるんだ？」と生徒に問いかけます。今で言うリベラルアーツ、ダイアログ（対話）でしょうか。この授業の中で大人と本気で話をすることを学びました。最後の5分になると、「もう終わりだ。5分だけ集中してこれだけ覚えろ。」と言って黒板にもすこい勢いで書きはじめ、生徒がノートに書き写し終わります。

そして私の人生を変えたのは国語の三好先生の授業でした。

夏目漱石「こころ」と中島敦「山月記」の授業は凄かった。「君ら理数科だから分かんたろうが」と言いつつ、人間の心とは何かを自身の人生の瘡蓋を剥いていくように語ります。「君らそう思わんか!?」人間の切なさ、心の葛藤を涙浮かべ問いかけてきます。正直この授業で「自分が進む道を間違えた」と思いました。心の発露である音楽を音響機器を介して表現するまどろっこしさ。技術者への思いに大きな疑問を持ちました。がもう受験前でした。

その後で中島敦の本を読みまし

た。本に李陵という話があります。李陵の祖父李広を司馬遷が成蹊大学の由来である「桃李言わざれど下自ら蹊を成す」と称賛しています。家からも近かったので成蹊大学工学部に行こうと決めました。人生勉強から切り替え覚悟を決めて12月から受験勉強をしました。戦略通り総合大学へ現役合格ができました。

大学に入るとジャズ研に入りました。大学には立派なスタジオがあります。様々な人が来て練習やセッションをします。その中に他と違う音を出している前田さんというトランペッターがいてその方の先生を紹介してもらいレッスンに通いました。先生は弟子を集めて毎年キャンプをしました。弟子の中にプロで活躍されていた藤井さんがいました。20年以上経ち、銀友の寄宿を見てびっくり！藤井さんは本郷の先輩でした！私を覚えていないかとも思いましたがSNSでリクエスト。SNSに投稿していた写真を気に入っていただき、ライブの撮影をさせていただけました。

音楽や文学に影響され、音響機器の技術者から社会や人の心を良くし

ていくための仕事をしたいと単純な発想で都庁を選びました。政策づくりがしたかった。でも事務職でなく入りやすい電気技術者の採用。心のねじれはあまり解消されませんでした。社会人になると漠然とした将来予想から茶道教授を取得、都庁モーゲルチーム創設などを経験しました。（これが後で役にたちました）

社会を変えてみたい！

30半ば仕事には自信がつかしましたが、このままで良いのか？社会のために俺がやったことはなんだ？と思い、首都大経営学大学院、日産自動車や学会のプロジェクトなどに行き、本当にやりたかった社会を良くする事始めの準備を開始。味塾俊先生、竹内佐和子先生、森本博行先生から教わったことを吐き出すため、都庁で持続可能な東京を考え実現する会を立ち上げました。ポトムアップで大組織の変革を目指したものです。当時副知事の猪瀬さんにも登壇いただきました。アバンギャルドな活動を見たら若手官僚が地球サミットのNGOの副代表へ誘ってくれました。しかし40で課長に昇格しなぜか人事の仕事。一切の活動中止を

上司から言い渡されました。五年間、命を削ってやってきた活動が一瞬で水の泡です。同時に東日本大震災、国の大事に何もできない無力感。やらされた仕事も含めて気がおかしくなる寸前でした。

それでも地元埼玉なら良いだろうと、地域の経営者になるう！地域を変えようと志民による企画会社の社長になることにしました。(役人は辞めないで金銭報酬はなく社会的価値創造と名誉と人生の充実が報酬です)大宮駅前商店街を市民に開放し、今まで埼玉、いや東京でもやったことないことしようといろんな企画を実施しました。日本一長い氷川参道で市民が初めてイベントをしました。5万人の規模くらいです。ご縁で上田知事に埼玉のダンス(埼玉ボーズの原型)の提案をしました。知事、県庁に相手にされませんでした。「翔んで埼玉」が映画化され大ヒット。

次に大宮区役所の建設で何かできないかと相談があり、大宮区役所地固め祭という企画を立ち上げ実行委員長へ。庁舎建設で市民が参加するという日本初の企画です。建設会社の

方は、「そんなので人が来るわけない！現場に市民を入れて迷惑」と言いました。地元企業の社長を中心に共感いただき、区の人口の1%1,300人が参加しました。写真家の浅田政志さんにも協力いただきました。市民参加のまちへと言う私の思いを表現したポスターにもなるタブロという冊子を人口の10%に配布しました。イベントは大成功。反対した人も「次はどうする？」と。結局、棟上げイベントに800名。完成には2,000名以上の市民が参加し庁舎を囲み一斉にテープカット！(写真)

昨年台風15号で千葉が史上初の長期間の停電の被害に。隣人が困っているのを見捨てることができず仲間呼びかけ支援へ。でもどこへ行ったら良いのか？SNSで賛同者を募りつつ情報収集と資金調達をしました。その時藤井さんの

紹介で知り合った本郷OBの竹野谷さんから連絡があり、山武市で農業を営む薄井さんが被災されていることを知りました。おかげで山武市と南房総市に2回支援に行き、被害の現

場の実態を見て凄く考えることができました。そして同窓の人脈が大事だと痛感しました。

音響機器の技術者になるため理数科に入学しましたが、国語の授業がきっかけで役人の道を選びました。本心からもっと役に立つ人になりたい。喜ばれたい。笑顔を見たい。心のねじれを解消するため衝動にかられ動いてきました。50歳になる今、節目が来ました。大停電、災害、新型コロナと人への脅威は「見すると物質的なものに見えますが、私は人の「こころ」と考えます。そんなことを考える私はまだ青い。それが分かりました。一区切りつき次に進む道へ歩踏み出します。



オリ・パラ特集 **本郷の先輩たち**



齊藤 義信

1960年=昭和35年卒業
高校12回生

オリンピック・ボクシング・コーチ
モントリオール、モスクワ、ロサンゼルス3大会
の日本代表コーチ

プロフィール

1959年(昭和34年)ボクシング東京選手権
(ジュニアの部)フライ級準優勝(本郷高校2
年生)

1960年(昭和35年)4月中央大学商学部
入学

1963年(昭和38年)第18回国体ボクシング
成年フェザー級優勝

1964年(昭和39年)3月中央大学商学部卒業。卒業後は日立化成商事、明治アルミ工業、雪印ビジネスサービス等に勤務。東海大学非常勤講師、神奈川工科大学非常勤講師も。一方、卒業と同時に母校の中央大学ボクシング部コーチになり選手を指導

1968年(昭和43年)中央大学ボクシング部監督に。その後16年間で7人のオリンピック選手を育成。関東大学リーグ8回優勝、全日本大学王座6回

1976年(昭和51年)オリンピック・モントリオール大会ボクシング日本代表コーチに
1980年(昭和55年)オリンピック・モスクワ

大会(不参加)ボクシング日本代表コーチに
1982年(昭和57年)5月全日本アマチュアボクシング連盟監督に
1984年(昭和59年)オリンピック・ロサンゼルス大会ボクシング日本代表コーチに(全日本監督兼務)



オリンピックの苦い思い出

「私ほど不運なオリンピックコーチはいないと言われました。モントリオール大会はボクシングチーム6人中、メダル候補2人が中央大学の選手でした。しかし1人は相手のパッティンクによるドクターストップ。もう1人も、ヘディングで額を割られ反則勝ちで2回戦に進んだものの判定負け。結果、終わってみれば「ノーメダル」でした。モスクワ大会では選手6人中5人が中大選手で2人はメダル候補でしたが、大会直前になって「不参加が決定」。このようにオリンピックでは不運でしたが、それ以外の世界、アジア、欧州の各大会では12人ものメダリストに恵まれました。

松平頼明校長との思い出

2年生の時(昭和34年)、ボクシング東京選手権(ジュニアの部)フライ級決勝で負傷判定負けし、治療のため表彰式に出られませんでした。10日後、学校に表彰状が届き、朝礼時に松平頼明校長から授与されました。その翌年の本郷高校の卒業式には私の個人的理由で出席できませんでしたが、2週間後の校長室で先生方に見守られるなか、お袋と2人きりでした。松平校長より卒業証書を授与していただきました。その折、校長が笑顔でお袋に「卒業の日付は卒業式の日付になっています」と、ささやかに思った思いやりの一言が、心に残っております。

中央大学のボクシング部監督とオリンピックのボクシング日本代表チームのコーチを兼務していた頃、各競技団体の強化合宿が度々行われていました。ある合宿の折、JOC役員の方々の視察があり、その中に松平校長がおられました。私の顔を憶えていて下さり、笑顔で私に近寄り握手し「元気だね。頑張っているね」と激励していただきましたが、あの時の手の温もりが忘れられません。

流水78年。人生謳歌

45歳でボクシング界を引退。企業人として仕事に専念し札幌、仙台、大阪と転動し62歳で退職。65歳で東海大学の非常勤講師も退任し、現在に至っております。現在があるのは、先生の師と仰ぐ5人の恩人(2人は存命)と5人の人生の大親友達に囲まれ、恵まれた環境にあったからです。流水78年。人生を謳歌しています。

本郷の先輩たち

オリ・パラ特集



川本 俊介

1981年=昭和56年卒業
高校33回生

オリンピック・ポルト
ロサンゼルス大会梶付きフオア（8位入賞）、ソ
ウル大会エイトで出場
プロフィール

元ポルト日本代表、愛知県ポルト協会副理事
長、トヨタ自動車工場工務部主幹
1962年（昭和37年）8月埼玉県川口生れ。
1981年（昭和56年）4月中央大学経済学
部入学。1986年（昭和61年）4月トヨタ
自動車株式会社入社

主なポルト戦績

1979年（昭和54年）出場／インターハイ（滋
賀県≡写真）、国体（宮崎県）ナックルフオア
1980年（昭和55年）出場／インターハイ（愛
媛県）ナックルフオア
1981年（昭和56年）優勝／大学選手権
全日本選手権、全日本新人戦（埼玉県）舵付
きフオア、エイト
1982年（昭和57年）出場／世界軽量級選
手権（スイス）エイト
1983年（昭和58年）優勝／大学選手権、
全日本選手権（埼玉県）エイト
1984年（昭和59年）優勝／大学選手権、
全日本選手権（埼玉県）エイト、梶付きフオア

1984年（昭和59年）出場／オリンピック（米
国・ロサンゼルス）舵付きフオア（8位入賞）
1988年（昭和63年）出場／オリンピック（韓
国・ソウル）エイト



オリンピックの思い出

ロサンゼルス大会は湖のコースで、昼近く
なると風と波が出てレースに支障が生じるた
め、朝7時から10時までの3時間でその日の
レースをすべて終わるといふ、経験した事の
ない早朝スケジュールでした。真っ暗なう
ちに起床しバスで移動、ウォーミングアップ
やコンディションを整えるのには苦勞しまし
た。湖はロス市街から離れており、選手村も市
街の「本村」に対し、ポルト&カー選手専用
の「分村」でした。カルフォルニア大学のサン
ターバラ校が使われたのですが、静かな落

ち着いたとても良い雰囲気でした。
ソウル大会の選手村は、新築のマンション
（大会終了後は民間に分譲）で日本選手団全員
が揃って入りました。ロスは違い賑やかな
雰囲気、村の外へも自由に出入られたので、
ちょっとした観光もできました。

ポルト男子の外国選手の平均身長・体重は、
「190cm・100kg」といったところ。私が
当時「183cm・76kg」で、身長だけで比較す
ると外国の女子選手と同じくらい。体格とパ
ワールの大きさが有利なポルト競技だけに、2
大会を通じて勝てたのは残念ながら韓国チ
ムだけでした。

しかし、ロス大会では東側諸国のボイコッ
トなどあり、参加国と参加種目の関係から舵
付きフオア種目で「8位入賞」となり、皇居
で開かれた茶会に招待され、昭和天皇に謁見
できたことは貴重な思い出です。

本郷生の皆さんへ

本郷にポルト部があることすら知らずに、入
学した私に、強く入部を勧めてくれたのが、1
年生の担任だった廣岡誠児先生でした。もし
も本郷に入っていなかったら、もしも廣岡先
生との出会いがなかったら、40年以上ポルト
に関わる今の人生はなかったでしょう。「イン
ターハイとか、旅行できるよ」と入部を勧め
てくれた廣岡先生、鬼のような練習メニュー
で鍛えられた小林正男コーチ、私にとって見
守ってくれた小林正男コーチ、私にとつてか
けがえのない恩師です。人との出会いを大切
にして下さい。打ち込む道が見つかったら、焦
らず諦めず着実に進んで下さい。本郷高校で
の生活は、これからの人生の糧となり良い思
い出であり続けるはずですよ。

オリ・パラ特集 **本郷の先輩たち**



パラリンピック…伴走者、コーチ
アテネ大会…全盲クラス1000m 8位入賞
ロンドン大会…陸上競技日本代表コーチ
プロフィール
NPO法人シオヤレクリエーションクラブ理事長。日本パラ陸上競技連盟普及振興委員、副委員長。
中学生の時に陸上を始め、社会人となり競技を続ける中、パラ陸上に出会う。
2000年(平成12年)全盲スプリンターの伴走を始め
2001年(平成13年)世界陸上選手権全盲クラス1000m銅メダル



塩家 吹雪

1990年=平成2年卒業
高校42回生

2004年(平成16年)アテネパラリンピック全盲クラス1000m 8位入賞(写真上…共同通信社提供)

2007年(平成19年)世界陸上選手権視覚障がいクラス4×1000m R銅メダル

2011年(平成23年)IBSA世界陸上選手権日本代表監督

2012年(平成24年)ロンドンパラリンピック日本代表コーチ

2016年(平成28年)リオデジャネイロパラリンピックで教え子が銅メダルを獲得し、指導者として文部科学大臣よりスポーツ功労者賞を受賞

2016年(平成28年)4月、障がいの有無にかかわらず参加可能な陸上教室やレクリエーションイベント等を開催するNPO法人設立。

現在は、子どもから大人までのランニング指導(写真下)、競技会解説、テレビ・ラジオ出演、さらにはオリパラ教育の一環として講演会講師を務めるなど、障がい者スポーツの普及、発展に向けて多忙な毎日を通す。

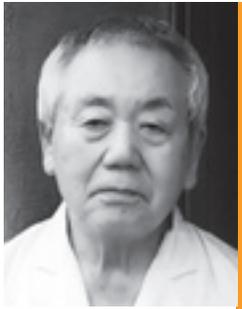
パラリンピックの思い出
近代オリンピック発祥の地、アテネ。陸上競技を始めて20年、オリンピック出場は叶わぬ夢となりましたが、全盲スプリンターの伴走者(ガイドランナー)として、パラリンピックという夢の舞台へ。4万人の観衆の中、息の合った二人三脚で見事8位入賞。メダルこそ獲得することはできませんでしたが、完全燃焼することができました。いよいよ東京にパラリンピックがやってきます。日本のパラアスリートの輝かしい活躍を、是非とも生でご覧いただきたいと思えます。

本人からのコメント
私にとって本郷高校での3年間は、陸上競技



のみならず、友人との絆やコミュニケーション能力を養うことができた最高の時間であったと感じています。今も高校時代の先輩や友人に支えられ、活動することができています。人との出会い・繋がりを大切にし、常に感謝の気持ちで忘れないこと。そして、今日より明日、明日より明後日、日々努力すれば自己の目標に必ず到達できるはず。その人の熱量の差。

本郷の先輩たち



江原 森太郎

1957年=昭和32年卒業
高校9回生

和菓子を作って62年

創業122年(明治30年創業)和菓子「埼玉屋小梅」の3代目店主。店は東京の下町・墨田区向島の言問橋のたもと。かつては水戸藩水戸光圀の江戸下屋敷だった隅田公園の一角にある。

伝統の風味

和菓子一筋の老舗。江戸時代の伝統を守り、最新の技術と、あずきは京都丹波大納言など最高級の原料を吟味し、四季折々の自然の風味を大切に、心を込めた手作りの和菓子を日々用意しております。TVや新聞、雑誌でも紹介されています。「小梅だんご」、「桜橋まんじゅう」は当店のオリジナル。

正月の隅田川七福神めぐり、春の墨堤桜祭り、早慶レガッタ、夏の隅田川花火大会、それに、眼前には東京スカイツリーがそびえ、四季折々イベントが楽しめます。

本郷の生活

部活動は、中学、高校の6年間、軟式テニスで頑張りました。毎日、学校に行くのが楽しみでした。中高とも皆勤賞をもちました。



らっています。数学の柏谷先生、国語の鈴木先生は今でも記憶にあります。柏谷先生のお宅には、何回かお伺いしたと思います。近くの染井能楽堂で能楽の授業があったことも覚えていますが、なぜ本郷に入学したかは思い出せませんが、おそらく、親父の親友で釣り竿の名工・中村準一さん(『竿準』)の影響でしょう。中村さんの偉さんと本郷の同級生で野球部のエースでした。町内からは、ほかにも5人ほど本郷に通っていた、と思います。



杉崎 信雄

1969年=昭和44年卒業
高校21回生

その道50年の手作り鞆職人

東京・文京区小日向に「バッグ工房アプト」を構え、デザイン・金具などを揃えオリジナルのオーダーを受ける。

プロフィール

1950年埼玉県生まれ。中学生のころから家業の鞆づくりを手伝いながら少しずつ仕事を

覚え、本郷高校卒業後は本格的に家業に携わり、2代目となる。「モリハナエ、横浜元町の「キタムラ」のバッグを仕立てる。

2008年(平成20年)「文の京技能名匠者」に認定、同年 経済産業省受託事業第4回東京文京区芸品チャレンジ大賞「奨励賞」を受賞。

文京区伝統芸芸会の会員にも選ばれた

こだわり

お客様の注文に合わせて、既製品にはない味わいのあるバッグをつくり上げることが、私にとって、この上ない喜びです。型紙から出上がるまで全て手づくりです。バッグ、鞆、財布など一個からでも注文を受けています。仕上がりまで2、3ヶ月待っていただくこともあります。お客様の希望された通りのものをつくるのが、ここまで手に職をつけてきた私の生きがいになっています。

バッグ工房「アプト」

https://bagaputobode.jimdo.com

学園時代の思い出

本郷高校を見学した時、広い土の校庭に憧れました。クラブは社会科研究会に入り、夏休みに愛知県の安城、日光、福島県の松川浦と地域と密着した産業を文化祭で発表しました。高校の3年間は自分なりに充実した時間を過ごせました。



創立期の貢献者、永井道明



永井道明（1868-1950）は、水戸藩士で弘道館師範、維新後は警察官となる永井道敏の子として水戸下市蔵前

1872年（明治5年）学制公布により、近代的学校制度が始まり、少し遅れて理論も指導者も施設もない模索の中で、体操が教科に採用された。国が有識者の外国人を招聘して指導者育成をしたのを契機に普通体操が、併せて軍人の体操術として用いられた兵式体操のふたつが学校体操として当初普及した。明治30年代になり、海外での視察・留学を終えて帰国した川瀬元九郎や井口あぐりによつて日本で最初にスウェーデン体操が紹介されると、学校体操の教育現場での混乱が大きくなり、文部省は1904年（明治37年）に調査会を設け、スウェーデン体操を主軸に、学校体操の本質について調査研究の必要性を認めた折に、欧米留学を命ずるべきふさわしい人物を探していた。

（現・水戸市城東5丁目）で1868年（明治元年）に生まれ、茨城県師範学校卒業後に小学校教師となるもすぐに東京高等師範学校に改めて学び、兵役を経て奈良県立畝傍中学校教諭兼舎監、1900年（明治33年）兵庫県立姫路中学校校長になった。当時、体操法の研究と普及に熱心に取り組んでおり、本を著し、各地で講演と指導にもあたっていた永井に注目した文部省は、彼に欧米の体育状況の視察を命じた。

永井は3年の欧米視察・留学にあたり、姫路中学校長を辞し、東京高等師範学校教授としてスウェーデン、ドイツ、デンマークなど各国の体育を調査研究し、当時間催されていたオリンピック第4回ロンドン大会も観ていた。スウェーデン体操を日本の学校体操に採用する旨の意見を固め、文部省は1913年（大正2年）に日本最初の「学校体操教授要目」を制定、スウェーデン体操と、それを行うのに必要な体操器具としての肋木、跳箱、平均台が日本全国の小中学校に普及するきっかけとなった。

永井の努力によって生まれた日本最初の要目は、学校体育教育のスタンダードであったが、その内容は形式的とされ、大正年間にアクロバティックなスポーツ競技



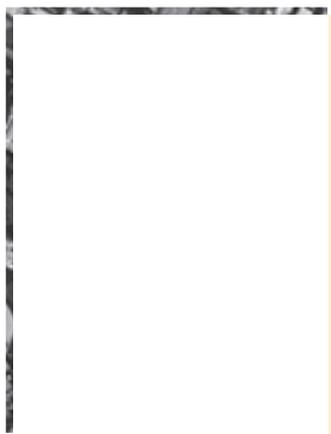
日本の学校体操の父、本郷学園



1936年



1945～50年頃



2019年

としての器械体操が注目され始めると、やがて要目も改定を迫られ、大正15年には改定された。

■ 永井道明は、1923年（大正12年）の本郷学園創立とともに、本学教頭として、創立者であり校長でもあった松平頼寿伯爵の実質的な校長代行として学園の整備と教育に邁進した。

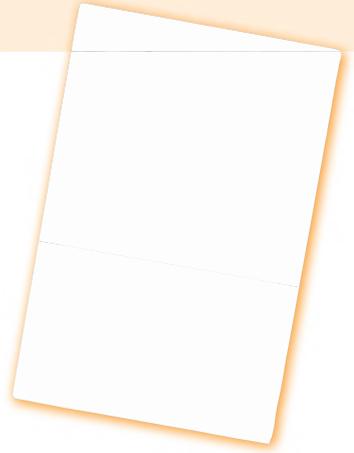
■ 都内屈指の広さを持つ本郷学園のグラウンドは、永井道明の度々の要望により、松平頼寿伯爵の資金協力を得て、敷地を拡張してきた結果である。当初計画での学校用地は2千坪であったが、理想

的な教育環境のためには敷地拡張が必要と訴えて、最終的には6千坪余りに広がり、グラウンド3千坪については整備のための開墾にも尽力した。

■ 1940年（昭和15年）に本郷学園を退職したが、引き続き本郷学園の顧問に就任し、永井体育館と本郷中学の教育に関与するも、時局の悪化と病、疎開などを経て、晩年は松平家を頼り駒込に在住、1950年（昭和25年）に亡くなった。



本郷中学同窓会報より～



■ 永井を体育功労者として称えるために建設されたのが体操器具の充実した永井体育館で、1933年（昭和8年）、永井道明門下生の間に、体育館建設の機運が高まり、永井道明が関わった関係団体と全国からの浄財、550名余りの本郷中学卒業生からも当時の金額で1800円（注・昭和10年当時の大卒初任給90円）という寄付が集まり完成、1937年（昭和12年）には、本郷中学校同窓会創立10周年の大祝賀会を永井体育館と松平家の庭園で挙行了した。



永井体育館 ～1937年(昭和12年)



永井体育館の成り立ち

永井体育館
松浦紫太郎

築井通りから正門に向つて進む。青葉を背景とした本校の、どつしりとした威容に驚かされるに、左側に明るい感じの體育館が、歴一つ止のぬい草々しさを見せてゐる。講堂時の一學級一學年が、幾の様な床の上に肉體と魂一如の運動を一身籠れ行つてゐるのも元よりよい放課後に見る籠球の選手が、赤旗の上半身を汗だくにして若拙のはねる様に跳躍つて居るのは、館の明朗なる感じに此の上もなない調和である。十間に十五間、百五十坪の廣さで屋根が高い。朝日と夕日は室内限なく照す。軒先の青葉が映る。青少年は遊樂とはねる。理想的の體育道場である。

昭和八年初春、永井先生門下生の間に其の建設後援の議が起り、各團體相應して遂にその威風を見たのである。我が本中卒業生團體は率先して協力せられたるは外論、人員に於て五百五十餘人が金額一千八百餘圓を出して下さつた事は誠に感謝に堪へない。

プールも欲しい。圖書館も足りない。湯みは色々ある。併し體育館がなくて、武道道場を兼用してゐた昔日に比べると、今更其の有效にして建設の有意義なりしを感ずるものがある。茲に館の現状を略記して後援者各位の御厚意を深謝する。

同期の輪

2017年Ⅱ平成29年卒業（高校69回生）

はたちの集い

立花 光陽

昨年5月18日土曜日、三菱養和会 巢鴨スポーツセンターにて高校69回生のはたちの集いが行われました。本郷高校を卒業して2年が過ぎ、久しぶりに顔を合わせたという同期生も多かったのではないのでしょうか。ただ、始まってみるとその時間を感じさせない盛り上がりようで、私たちは学園時代の思い出や今後の進路について大いに語り合いました。皆が「本郷生」の心地よさに酔い、「本郷生」という存在の有難さを噛みしめていたと思います。それ程に私たちにとつてのより所であり、誇りの本郷学園でした。このように思える

学校に通い、恩師に習い、本郷生として学んでいた、その幸せに気付かされた会でありました。

次回、大々的に同期生で集まるのは「30歳の集い」になるかと思えます。その時まで会えないかもしれません。ただ、その時には今一度「本郷生」に立ち返り、お互いの成長や変化を屈託なく楽しみましょう。その時までどうか「心は剛毅に身は強健に」お過ごしください。

最後になりますがこの場をお借りして、我々にこのような場を設けるため、ご尽力賜った同窓会の諸先輩方、理事長先生、校長先生、恩師をはじめとする学校関係の皆様は厚く御礼申し上げます。



30歳の集い

2007年 平成19年卒業（高校59回生）

大野 太郎

ラグビー部所属の大野と申します。私達、高校59回生は昨年の6月29日に30歳の集いを開催しました。私達の学年は昭和63年、64年生生まれ、平成元年生まれと三世代が混在した珍しい学年になります。平成とともに30年を過ごしてきました。

開催するにあたり、どのように人を集めるかを考えました。その中で、SNSを利用して広報し出欠もインターネット上で回答出来るようにしました。従来のハガキによる発送も合わせて行いました。一定の効果はあったと思いますが、仕事、子育て真っ最中の世代、当日集まった人数は34人でした。

最初は少ないかなとも感じていましたが、会が始まるとそれぞれが本郷在学中の3年間、6年間に戻り、級友達との時間を楽しんでもくれてい



る様でした。中でも30歳の集いのために遠方から飛行機、新幹線を利用して足を運んでくれた人達もいて、幹事にとってはありがたいことでした。幹事として手伝ってくれた帰山君、御協力頂いた同窓会役員の方々、ありがとうございます。

還暦の集い

1977年 昭和52年卒業（高校29回生）

泉 昇一

令和元年11月2日土曜日午後1時、本郷高校巣鴨門に、葉書で出席の連絡があった同級生たちが集まり、皆それぞれに〇〇か？そうだよ！△△か？お互いに年取ったなあ！の会話などで、再会の時が始まりました。私は、今回幹事を務めました柔道部出身の泉昇一と申します。（1年9組・担任・藤原先生。2年4組、3年4組・担任・星川先生）お疲れさまの挨拶をして、校内ツアーがスタート！ご案内役は、現役の野村先生です。

私のように、年に数回本郷を訪問していると学校全体の雰囲気は、何となくわかつているのですが、ほとんどの同級生が、42年振りです、へえー！とか変わったなあ！の声があちらこちらから聞こえてきました。

まずは、本郷高校の歴史資料室か

らの見学と野村先生からの説明がありました。開学が大正12年とのこと、写真や資料などを見ながら、こんな感じだったのか！など皆感慨深げに見学していました。その後は、オープンスペースの図書室や自習室を見学。何と素晴らしい学習環境かと皆一様に、「この感じだったら、俺ももっと勉強に打ち込んだよな！」の声が聞こえてきました。野村先生によると、学生たちは、よくこのスペースを活用しているとのこと。

50周年記念館の横を通りながら、ガラス窓越しに、学生たちが食堂を利用しているのが見えました。私たちの当時は、食堂は無く、業者がパンや飲み物を売りに来ていた記憶があります。記念館の裏側には、ロープをつたって上がり下がりをする設備や陸上競技用の直線トラックなどを見学しました。屋上の野球練習場や講堂なども見学。講堂は、大変立派な造りで、入学式・卒業式が行わ

れるとのこと。私たちの時は、入学式が文京公会堂で、卒業式が虎ノ門方面の施設だったと思います。皆立派になったなあ！と驚いていました。

あと、驚いたのが、トレーニングルームでした。ジムのような素晴らしい施設。私たちの時は、地面にバールやダンベルを置いてトレーニングをしていたので、まさに隔世の感という言葉がぴったりの施設でした。ツアーは、中庭で終了。一時間弱のご案内でしたが、ビックリの連続の校内ツアーでした。野村先生、どうもありがとうございました。

さて、その後は、三菱養和会のレストラン『パルテール』へ移動し、懇親会です。最初に、大先輩の赤井さんに、写真撮影と同窓会のご案内をしていただき、拙い私の司会で、会がスタート。柔道部の同期の藤井さんに乾杯の挨拶をしてもらい、和やかに始まりました。会食だけでは、全員が名前と顔が一致しないので、1組

の同級生から順番に三分間スピーチをしてもらいました。皆さん、話が上手で、そんなことがあったんだ！と、感心する話が盛りだくさんでした。本郷高校ラグビー部の準決勝チケットをゲットするジャンケン大会をはさみ、あつという間にお開きの時間に。ラストで、当時やんちゃ系の二



人であった菊池建設社長の菊池さんに、締めのご挨拶をしてもらい三本締めで終了しました。

皆さんが、こういう機会を設けてくれてありがとう！の声が多かったので、幹事として何とかお役目を果たせたかな!?とホッとしました。ご支援いただいた同窓会の皆様方と、参加してくれた同級生たちに、感謝いたします。誠に、ありがとうございます。

1966年 昭和41年卒業（高校18回生）
高18同期会

小倉 義雄

昨年は、同期の皆さんに本郷祭（学園文化祭）を見学して頂きたい思いもあり、相談して9月21日（土）に実施することに致しました。私は一時間前に本郷同窓会展示ブースに行き、見学などしましたが懐かしい人達とお会い出来嬉しかったです。本郷学園も益々校舎やグラウンド等綺麗になり、

本郷祭も大変にぎやかでした。

さて、同期会は午後5時より巣鴨駅近くの居酒屋にて行いました。昨年は私が病氣入院したこともあり開催出来ず、一月末に有志でいつもの同期生のスナックで新年会を開いて済ませてしまいました。今回の同期会は40名に案内状を発送したので



すが、年を重ねることに体調を悪くした方や都合の付かない方が多く、18名の参加になってしまいました。その中で初めて参加された方や遠方からわざわざ来て下さった方もいて、大変ありがたく思いました。

毎回の様に和やかに学生時代の話や近況報告・健康管理のこと等話し、最後に写真撮影や校歌を皆で歌い、大変楽しい3時間を過ごすことが出来ました。その後、時間のある人達は二次会に行きました。

最後に、お互いの健康と母校ならびに本郷同窓会の益々のご発展を心より祈念して報告と致します。

1983年 昭和58年卒業（高校35回生）
M2クラス会

藤谷 利之

令和初の本郷高等学校機械科2組（昭和58年卒）のクラス会を昨年11月9日（土）、上野の居酒屋で開催しました。前回は出席いただけなかった

小倉先生もこのクラス会のため？体調を整え出席してくださいました。

卒業して37年経ち、普段は会社の社長さん、誰かの上司、夫、あるいは親として、そこそこの威厳をもち、様々な課題を解決しているであろう人たちが、一言、二言と会話しただけで、目をキラキラさせたアホな高校生に戻ってしまうのだから、同級生とは不思議なものです。

お酒が進むにつれ誰からともなく近況報告が始まり、趣味や仕事などの話に真剣に耳を傾ける場面もあり、気付けば「ただ」その時を楽しんでいる18歳の自分がいました。

たった3年間の高校生活でしたが、小倉先生とM2の仲間に会えちゃったことで、今の社会での3年間とはくらべものにならないほどの沢山の思い出ができ、またこうして50歳を過ぎてからも毎年皆に会えることに感謝します。

今回はM2総勢51名の内10名で

の開催となりましたが、いつか30名、40名と集まることを期待します。

最後は皆で小倉先生を上野の駅までお見送りして、次回再開を約束し解散しました。

これからの益々の母校ならびに同窓会のご発展と皆様のご健勝を祈念致します。



1980年「昭和55年卒業生（高校32回生）」

「還暦の集い」のお知らせ

昭和55年卒業生の皆様へ

55歳時に第1回同期会(2017.2.25)を開催し早や4年が過ぎました。2021年度に「還暦」を迎える前に「堂に会いたい」と思います。皆様には、ぜひご出席くださいますようお願い申し上げます。

記

日時

令和3年(2021年)2月27日
(土)12時半

場所

三菱養和会(2F)パルテール
パーティールーム

内容

記念撮影、学校見学、懇親会
費用

5千5百円

幹事

米澤潤

第七回本郷医師の会

本郷医師の会幹事長
杉下 和行1996年11月平成8年卒業
(高校48回生)

第七回本郷医師の会を令和元年11月30日に新宿区内で開催致しました。今回はホテルの最上階の個室での親睦会となりました。参加者数は前回よりも増えており、平成30年卒業の方を中心に医学生に参加者が多かったです。例年通り、本郷医師の会会長の岡本先生よりご挨拶をいただき、親睦会が始まりました。

歓談後、しばらくして全員から近況報告をしていただきました。医学を学び始めた医学部の1・2年生が多く、色々な進路を考えているように、先輩の話を聞いてとても参考になるとのことでした。また、医学部の3・4年の方では部活動で主将の経験者が非常に多く、文武両道の本郷卒業生ならではのと思わざるを得ませんでした。

今年は、集合写真の撮影を近況報告の直後に設けました。途中で所用

で帰ってしまう先生がおられることを考えてのことです。最後に、最年長者の先生から「お正月は2年連続で花園に出席が決まったラグビー部を応援しよう」というご挨拶をいただき、二丁締めにて散会となりました。

中高貫校の進学校の生徒が主体でラグビー部が全国レベルの強豪という学校は他にあるでしょうか。今回の参加者に本郷中学・高校で6年間ラグビー部という医学部生の方もいました。後輩たちの活躍目を細めて見ております。

令和2年11月28日土曜日に第八回本郷医師の会を開催致しますので、この記事を読まれた医師あるいは医学生の方は是非ご参加下さい。「本郷医師の会」で検索していただくこと本郷医師の会のホームページが表示されます。そこに連絡先が記載されておりますのでご連絡ください

けましたら幸いです。同日にご都合が悪い方でも名簿に登録させていただき随時お声掛けを致しますので遠慮なくお問い合わせて下さい。
銀友で繰り返しご案内をさせていただきますましたお蔭で本郷医師の会のメンバーも60名を越え大所帯になりました。同窓会の皆様にお礼を申し上げます。



OB会通信

応援委員会指導部

山田 駿也

2015年平成27年卒業
(高校67回生)



この度銀友編集委員の大先輩からご連絡いただき、高校在学時に発足させた応援委員会指導部についてご紹介の機会を頂きましたこと、まづもって御礼申し上げます。二〇一五年三月に本郷高校を卒業しました山田と申します。

応援委員会指導部は、体育祭や本郷祭、それに部活動の応援などの場面で、組織立った応援を指揮し実行することを主な活動としていた団体であり、二〇二二年に発足しました。それまでも「応援団」というものは本郷にありましたが、

体育祭の期間限定で存続していたためそのノウハウをなかなか翌年度以降に引き継ぐことが難しいといった意見がありました。そこで、常設団体として通年にわたって本郷、本郷生を応援したいという意思の下、国語科の横尾朗大先生と同期三人とともに高校一年時に立ち上げました。

発足直後の在籍数はわずか七人でしたが、現在では三十七人(令和元年度)まで部員は増加し、その活動内容も校内での活動にとどまらず、毎年静岡で開催される高等学校応援団フェスティバルへの参加やテレビ番組出演など多岐にわたっています。

昨年、これまでの活動が評価され学校より校旗を寄贈していただきましたことなど、団体として学校から認められつつある応援委員会指導部ではありますが、発足後数年はとても苦悩したことをつい昨日のことのように覚えています。朝礼や式典で前に出て指揮を執るたびに失笑やヤジが飛び交い、部活動の応

援でもなかなか受け入れてもらえず、自分たちがやりたい応援というものには結局エゴに過ぎないのではないかと考えたこともありました。

応援は伝統を非常に重んじる一方、観客や生徒の気持ちや熱意を敏感に感じ取り、それを選手らに的確に伝える必要がある点で、常に新しく変化することを求められていると考えています。応援委員会指導部が最終的に受け入れてもらえたのは、この応援の性質が「伝統と自由」という本郷の校風に馴染みやすかったからなのではないかと今になって思います。仲間たちとともに自分たちのやりたい応援を追求するのに捧げた本郷高校での三年間は、今でもかけがえのない経験であり、ささやかな誇りです。

現在私は大学院にて法律家を目指して勉強をしているかたわら、総勢十八名となった応援委員会指導部の卒部生によって構成されたOB会(青染会)の会長として、応援委員会指導部のバックアップをさせて頂いております。合宿での練習指



左から2人目が私

導や、文化祭での裏方補助、保護者会での講演などの活動の他、卒業生同士の交流会（飲み会）を実施しています。しかし最も重要なことは、本郷の多くの先輩方のように、社会においてそれぞれが活躍することであり、それが自分たちを

育んでくれた本郷や応援委員会指導部への恩返しになると今は考えています。

本郷、応援委員会指導部での経験に改めて感謝するとともに、本郷OBの名に恥じぬようこれからも精進して参りたいと思います。

サッカー部

恩師・阿出川信夫先生は令和2年1月2日に77歳の誕生日を迎えられました。そこで新春恒例のOB会でお祝いをすることにしました。

1月12日（日）、第1部で午前10時より冬期OB戦を楽しみ、引き続き午後1時半から、第2部として「阿出川先生の喜寿の会」を開催しました。ここではOB会会長の風見君より記念品「世界に誇る日本酒」が寄贈され、懐かしい話で時間が過ぎました。

さらに第3部の懇親会では、全国

大会に出場し本郷サッカー部の黄金時代を築いたOB中心に、阿出川先生を囲んでの語らいに花が咲き、約2時間過ぎてても途切れませんでした。最後に東山君の音頭でOB会の発展を祈念して散会しました。



新型コロナウイルスの感染拡大のため 定期総会・理事会など一部の行事を中止する

会の運営

会員相互の意見と親睦

母校の後援

- 理事会開催日 日時：10月17日（土）15時。会場：母校1号館2階会議室

- 各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒を表彰

- 理事懇親会開催日 日時：10月17日（土）17時。会費 3,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

- 卒業生全員に記念品贈呈
- 会員名簿の整理

- 「はたちの集い」（第13回）卒業2年後の同期会。2018年 平成30年3月卒業生 8高校70回生V対象）開催日 日時：11月21日（土）14時半。会費 1,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

- 同窓会会員名簿の管理、会費納入者・物故者の記録および「銀友」掲載用原稿作成など必要な各種事務処理 業者に委託

ホームページの管理

- 同窓会行事の告知・開催報告ならびに更新、既刊を含む同窓会誌「銀友」の転載、住所変更受け付け、同期会等の開催告知・報告掲載など

その他の事業

- 運営委員会開催日 日時：5月16日（土）15時、6月20日（土）15時、7月18日（土）15時、9月5日（土）15時、10月17日（土）13時、11月21日（土）11時、12月19日（土）15時、1月16日（土）15時、2月20日（土）15時、3月27日（土）15時。会場：いずれも母校4号館会議室
- 「はたちの集い」（第14回。2019年 平成31年3月卒業生 8高校71回生V対象）実行委員会開催日 日時：2月20日（土）13時。会場：母校4号館会議室
- 「はたちの集い」（第16回。2021年 令和3年3月卒業生 8高校73回生V対象）実行委員会結成：3月初旬。会場：母校4号館会議室

- 還暦、30歳の集いなど同期会の開催支援
- 会誌の発行

- 「銀友」49号 発行日：5月1日。発行部数：15,000部。

A5版

- 学園教職員との懇親会開催
- 卒業式、体育祭など学校行事への役員代表の出席、参観

会誌の発行

- 本郷祭（学園文化祭）同窓会展示室（ブース）開設

- 学園教職員との懇親会開催
- 卒業式、体育祭など学校行事への役員代表の出席、参観

同窓会からのお願い

年会費納入に是非ともご協力ください 一口：2,000円以上

同窓会の運営はすべて皆様の会費で行っております。

振込取扱票を同封いたしました。

インターネットバンキングを含む銀行振り込みも可能です。その際は会員番号（振込取扱票に印字してあるお名前の下の8桁の数字）か、氏名と卒業年（昭和はS、平成はH、令和はRと表記してください）を明記してください。

銀行口座：三菱 UFJ 銀行駒込支店 普通口座 0821142 本郷学園同窓会

2020年度収支予算案 2020年4月1日～2021年3月31日

(単位：円)

科 目	収 入	科 目	支 出
前年度繰越金	3,121,846	総会(0回)、理事会(1回)開催	150,000
新卒者同窓会入会金	3,000,000	〔 資料作成費	〔 50,000
同窓会年会費	2,000,000	〔 懇親会費	〔 100,000
はたちの集い	400,000	会誌発行費(15,000部)	2,950,000
〔 会費	〔 150,000	〔 銀友制作費	
〔 学校側負担金	〔 250,000	〔 宛名印刷費	
懇親会会費	100,000	〔 ラッピング費	
〔 理事会	〔 100,000	〔 発送費	
〔 総会	〔 0	〔 編集諸経費	
雑収入	0	行事部門	1,750,000
		〔 はたちの集い	〔 700,000
		〔 本郷祭同窓会出展費	〔 250,000
		〔 同窓会開催支援費(活性化)	〔 100,000
		〔 活躍した生徒への激励費	〔 400,000
		〔 卒業生記念品費	〔 150,000
		〔 学園懇親会費	〔 150,000
		会員名簿保守管理費	250,000
		ホームページ年間契約料	70,000
		運営委員会交通費補助	200,000
		事務費	200,000
		〔 備品費	
		〔 消耗品費	
		〔 資料作成費	
		〔 通信費	
		〔 雑費	
		支出合計	5,570,000
		次年度繰越金	3,051,846
合 計	8,621,846	合 計	8,621,846

2019年度事業報告

2019年4月1日～2020年3月31日

会員相互の意見と親睦

● 定期総会開催Ⅱ日時：6月15日（土）15時。会場：母校1号館2階会議室

● 定期総会後の会員懇親会開催Ⅱ日時：6月15日（土）17時。参加者数：47人。会費：3,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 理事会開催Ⅱ日時：4月20日（土）15時、10月19日（土）15時。会場：いずれも母校1号館2階会議室

● 理事会後の理事懇親会開催Ⅱ日時：4月20日（土）17時。参加者数：28人。日時：10月19日（土）17時。参加者数：22人。会費：いずれも3,000円。会場：いずれも三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● はたちの集い(第12回)。2017年Ⅱ平成29年3月卒業生A高校69回生V対象)開催Ⅱ日時：5月18日（土）14時半。参加者数：180人(卒業生160人、理事

長・校長・担任教諭など学園関係者8人、同窓会関係者12人)。会費Ⅱ1,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 30歳の集い(第2回)。2007年Ⅱ平成19年3月卒業生A高校59回生V対象)開催Ⅱ日時：6月29日（土）14時。参加者数：34人。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 還暦の集い(第2回)。1977年Ⅱ昭和52年3月卒業生A高校29回生V対象)開催Ⅱ日時：11月2日（土）13時。参加者数：24人。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 本郷祭(学園文化祭)同窓会展示室(ブース)開設Ⅱ開設日：9月21日（土）、22日（日）。会場：母校2号館教室

会誌の発行

● 「銀友」48号Ⅱ発行日：5月1日。発行部数：15,000部。A5版

母校の後援

● 各分野における全国規模の大会等

で活躍した生徒73人(9件)を表彰卒業生全員309人に記念品として印鑑を学園ならびに父母の会と共同で贈呈

会員名簿の整理

● 同窓会会員名簿の管理と会員の住所変更登録、会費納入者・物故者の記録および「銀友」掲載用の原稿作成など必要な各種事務処理Ⅱ業者に委託

ホームページの管理

● 同窓会行事の告知・開催報告ならびに更新、既刊を含む同窓会誌「銀友」の転載、住所変更受け付け、同期会等の開催告知・報告掲載など

その他の事業

● 学園教職員との懇親会開催Ⅱ日時：11月27日（水）18時。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内。同窓会より11人参加。学園側からは理事長、校長、母校OB教諭などが出席

● 入学式、体育祭に役員代表が出席、参観

広明、永瀬智也（2006（平成18）年卒業Ⅱ 高校58回生）、立花光陽、伊藤瑞貴、畠中晃平（2017（平成29）年卒業Ⅱ 高校69回生）5氏を推薦、事前に就任承諾書を得ていることを報告し、全会一致で承認した。

第4号議案

2018年事業報告の件

議長から第4号議案が提案され、同窓会活性化担当の梶運営委員からは「はたちの集い」「同期会」「還暦の集い」開催支援について、「本郷祭」の同窓会展示について山際副会長から報告された。さらに同窓会誌「銀友」第47号発行について市倉副会長、同窓会ホームページの管理について野口運営委員からそれぞれ説明させた。最後に母校の後援・その他の事業について秋元副会長に別紙総会資料4、5、6頁「2018年度 事業報告」「2018年度 表彰報告」（「銀友」48号32、33、36、37頁記載）を報告させた。

第5号議案

2018年度収支決算報告の件

議長から、第5号議案が提案され、立入運営委員が別紙総会資料9頁「2018年度 収支決算報告書」（「銀友」48号33頁記載）に報告させた。次いで、熊木宏治監事（1960（昭和35年卒業Ⅱ 高校12回生）が、2018年度会計について、4月16日（火）に監査を行った結果、「2018年度の収支決算は公正かつ妥当である」と報告した。ここで第4号、第5号議案を一括して諮り、質疑の後、いずれも全会一致で承認した。

このあと、出席者からの発言が懇談的であり、議長が議事の終了を宣言し、司会が総会の閉会を告げた。

この議事を明確にするため、別紙総会資料を添付して本議事録を作成し、議長ならびに議事録署名人名下に署名する

2019年6月15日
本郷学園同窓会

議長 南谷 修

署名人 竹村 義教

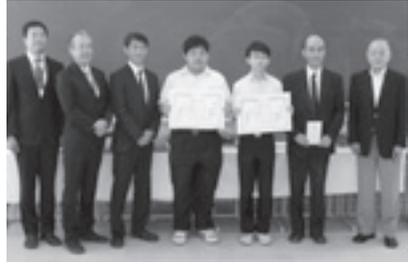
署名人 佐々木 晋一



2019年度表彰報告

1.

第15回全国物理コンテスト物理チャレンジ2019で第2チャレンジに進み優良賞(八高校)受賞(八高校)吉翔太君)、奨励賞(八高校)岡野修平君)を受賞



2.

第65回全日本中学校通信陸上競技東京都大会の共通110mHで優勝(城野哲郎君)



各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒73人(9件)を表彰

3.

第27回日・韓・中ジュニア交流競技会のラグビーフットボールU17日本代表選手に選ばれる(八高校)吉村隆志君)以上4人(3件)9月21日表彰



4.

第50回ジュニアオリンピック陸上競技大会の東京都代表最終選考会Aクラス110mHで優勝し同大会への出場へ(城野哲郎君。大会は台風のため中止)



5.

第25回全国ジュニア・ラグビーフットボール大会の東京都中学校代表チームメンバーに選抜される(伊東亮資、田中玄樹君)



6.

第九十九回全国高等学校ラグビーフットボール大会の東京都第二地区予選で優勝し同大会へ2年連続11回目の出場。初戦敗退も、開会式で最も元氣よく明るく行進したチームに贈られる「フィール

ドリーム賞」受賞（岡本大輝、福澤慎太郎、池田健郎、吉岡麟太郎、齋藤優成、細谷源二郎、小野史裕、坂下航亮、清水鳴哲、田中悠介、布袋田磨周、佐藤健太、長峰獎真、仙波葵、榎谷連太郎、山脇智史、岡田慎之助、古金谷龍之介、小林侃生、高橋陽太、梶原岳人、長田健、渡邊琉斗、臼井響、中谷波一土、原田琉宇、森雄琉、村田翔平、吉村隆志、笠原凌大、佐々木柁、鈴木陸、上野春馬、小島慎太郎、松永大輝、岡村圭悟、榊原旺介、新井裕介、稲垣堅斗、鈴木寛征、關田久蔵、渡邊勇太、畠廉汰郎、岩波虎、田中明、石川智大、大島拓真、内田拓見、清未遼一郎、土屋翔夢、中川剛郎、中村賢亮、福井悠雅、立花智紀、堂前薫、大津馨士郎、梶原晴葵、鈴木混平、青木晟時、川名慶征、柳下雄吾、高木桜輔君）



7.

第28回全国高等学校将棋新人大会の東京地区予選個人戦で準優勝し、同大会関東大会ならびに全国大会に出場（増田淳哉君）



8.

第59回全国中学校水泳競技大会の男子200m個人メドレーに出場（中西祥旗君）



9.

2019年度ピティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会の連弾中級Bで銅賞を受賞（八中学V山下順一朗、山下宗一郎君）



表彰
以上69人（6件）11月30日

本郷学園同窓会役員(案)

任期：2021年度定期総会まで

○印は理事候補

役職	氏名	卒業年	卒業回期	役職	氏名	卒業年	卒業回期
名誉会長					中田守喜	1969 (昭和 44) 年	高校 21
	松平頼昌	(学園理事長)			堀井貞夫	1969 (昭和 44) 年	高校 21
会長・理事					染谷幸雄	1970 (昭和 45) 年	高校 22
	南谷 修	1956 (昭和 31) 年	高校 8		砂沼照男	1971 (昭和 46) 年	高校 23
副会長・理事					押田松児	1971 (昭和 46) 年	高校 23
	秋元幹夫	1955 (昭和 30) 年	高校 7		小堀義光	1971 (昭和 46) 年	高校 23
	小室能広	1956 (昭和 31) 年	高校 8		田中良一	1972 (昭和 47) 年	高校 24
	市倉洋一	1960 (昭和 35) 年	高校 12		中嶋健至	1973 (昭和 48) 年	高校 25
	山際幸雄	1966 (昭和 41) 年	高校 18		平野隆之	1974 (昭和 49) 年	高校 26
監事					鈴木利一	1975 (昭和 50) 年	高校 27
	木塚順夫	1956 (昭和 31) 年	高校 8		大蔵利文	1976 (昭和 51) 年	高校 28
	熊木宏治	1960 (昭和 35) 年	高校 12		岡野智彦	1976 (昭和 51) 年	高校 28
顧問					神谷秀行	1976 (昭和 51) 年	高校 28
	佐久間昭浩	(校長)			川俣 弘	1976 (昭和 51) 年	高校 28
	山内英夫	1951 (昭和 26) 年	高校 3		馬島善宏	1976 (昭和 51) 年	高校 28
運営委員・理事					塚本雅一	1977 (昭和 52) 年	高校 29
	新澤米次	1956 (昭和 31) 年	高校 8		鶴坂宏文	1977 (昭和 52) 年	高校 29
	井上栄三郎	1958 (昭和 33) 年	高校 10		松本伸行	1980 (昭和 55) 年	高校 32
	竹村義教	1960 (昭和 35) 年	高校 12		清水一郎	1980 (昭和 55) 年	高校 32
	梶 徳治	1968 (昭和 43) 年	高校 20		小池武次	1983 (昭和 58) 年	高校 35
	赤井健郎	1970 (昭和 45) 年	高校 22		竹野谷茂	1983 (昭和 58) 年	高校 35
	野田悠二	1972 (昭和 47) 年	高校 24		岡本明久	1988 (昭和 63) 年	高校 40
	千野邦雄	1973 (昭和 48) 年	高校 25		移川真男	1990 (平成 2) 年	高校 42
	石井聖一	1973 (昭和 48) 年	高校 25		下村大樹	1993 (平成 5) 年	高校 45
	立入健司	1974 (昭和 49) 年	高校 26		佐藤憲一	1993 (平成 5) 年	高校 45
	泉 昇一	1977 (昭和 52) 年	高校 29		野村竜太	1994 (平成 6) 年	高校 46
	米澤 潤	1980 (昭和 55) 年	高校 32		杉下和行	1996 (平成 8) 年	高校 48
	野口貴洋	1983 (昭和 58) 年	高校 35		薄井健吾	1997 (平成 9) 年	高校 49
	佐々木晋一	1985 (昭和 60) 年	高校 37		池田貴生	2005 (平成 17) 年	高校 57
理事					宮川元	2005 (平成 17) 年	高校 57
	野木惣市	1945 (昭和 20) 年	中学 19		石川広明	2006 (平成 18) 年	高校 58
	地曳秀雄	1951 (昭和 26) 年	高校 3		永瀬智也	2006 (平成 18) 年	高校 58
	津久田愛之助	1954 (昭和 29) 年	高校 6	○	大重崇	2007 (平成 19) 年	高校 59
	渡辺昭義	1954 (昭和 29) 年	高校 6	○	大野太郎	2007 (平成 19) 年	高校 59
	岡本信也	1958 (昭和 33) 年	高校 10		關田宗範	2011 (平成 23) 年	高校 63
	久保國男	1960 (昭和 35) 年	高校 12		北野史浩	2013 (平成 25) 年	高校 65
	高田隆義	1963 (昭和 38) 年	高校 15		田口雄飛	2013 (平成 25) 年	高校 65
	小倉義雄	1966 (昭和 41) 年	高校 18		増本洋行	2015 (平成 27) 年	高校 67
	宮沢正喜	1966 (昭和 41) 年	高校 18		立花光陽	2017 (平成 29) 年	高校 69
	関塚正治	1968 (昭和 43) 年	高校 20		伊藤瑞貴	2017 (平成 29) 年	高校 69
	内山正敏	1968 (昭和 43) 年	高校 20		畠中晃平	2017 (平成 29) 年	高校 69

学園だより

本郷高校 2020 年春大学入学試験合格実績

大学名	計	現役
国公立大学・大学校		
東京	8	6
京都	2	
一橋	4	4
東京工業	4	4
北海道	4	4
東北	4	2
大阪	2	1
北見工業	2	2
秋田	1	1
筑波	2	2
埼玉	2	1
千葉	7	4
電気通信	5	5
東京学芸	1	
東京海洋	1	1
東京農工	3	2
横浜国立	5	5
新潟	1	
富山	2	1
金沢	1	
山梨	1	
信州	3	2
静岡	1	
京都工芸繊維	1	1
宮崎	1	
岩手県立	1	
国際教養	2	
東京都立	2	1
防衛大学校	1	1
防衛医科大学校	2	
水産大学校	3	1

大学名	計	現役
私立大学		
早稲田	136	110
慶応義塾	74	56
上智	28	17
東京理科	136	118
明治	140	106
青山学院	14	9
立教	54	33
中央	48	32
法政	59	45
学習院	15	10
岩手医科	1	
東北医科薬科	1	
国際医療福祉	2	
埼玉医科	1	
獨協	1	
日本工業	1	
文教	1	1
文教学院	1	
日本薬科	1	
神田外語	2	2
城西国際	1	1
千葉工業	8	8
帝京平成	1	1
亜細亜	1	
北里	6	4
杏林	3	1
工学院	2	1
國學院	12	10
国際基督教	3	3
国士館	3	2
駒澤	13	5
芝浦工業	55	47
順天堂	3	1
昭和	2	
成蹊	9	5
成城	13	7

大学名	計	現役
私立大学		
専修	9	8
大東文化	4	3
大正	1	1
拓殖	3	1
帝京	8	2
東海	7	6
東京経済	2	
東京慈恵会医科	2	
東京電機	13	8
東京農業	11	7
東京薬科	1	1
東邦	6	5
東洋	23	14
日本	91	57
日本医科	5	1
星薬科	1	
武蔵	15	12
東京都市	4	3
明治学院	13	11
明治薬科	3	1
明星	1	1
立正	1	1
嘉悦	1	1
神奈川工科	1	
神奈川	8	6
関東学院	1	
湘南工科	1	
金沢工業	2	
帝京科学	1	1
朝日	1	1
愛知医科	1	
同志社	9	
立命館	7	5
関西	1	
関西学院	1	
立命館アジア太平洋	1	

退職教諭

養護 三浦 亜紀子 先生

(2020年4月3日現在)

本郷学園同窓会会則

《名称》

第一条

◆ **第二章 名称及び位置** ◆
 本会は本郷学園同窓会という。

《位置》

第二条

本会は事務所を東京都豊島区駒込四丁目十一番一号
 学校法人本郷学園内に置く。

◆ 第二章 目的 ◆

《目的》

第三条

本会は会員相互の親睦を深め母校の発展をはかるこ
 とを目的とする。

《事業》

第四条

本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 会員の親睦の開催
- (2) 会誌の発行
- (3) 母校の後援
- (4) 会員名簿の整備管理
- (5) ホームページの管理
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事業

◆ 第三章 組織及び役員 ◆

《会員》

第五条

本会は次の会員により組織する。

- (1) 旧制本郷中学校及び本郷高等学校卒業生
- (2) 本郷中学校卒業生及び旧制本郷中学校並びに本郷高等学校に在籍したことのある者で理事会の承認を得た者

《役員》

第六条

本会には次の役員を置く。

会長 一名、副会長 若干名、理事 各任期若干名、監事 二名

《役員選出》

第七条

前条の役員は次の方法により定める。

- (1) 会長は理事会において理事の互選により選出する。
- (2) 副会長は理事の中から会長の委嘱によつて定める。
- (3) 理事は各任期の中から選出し、総会の承認を得るものとする。ただし選出のない任期からの理事は会長が委嘱し、総会の承認を得るものとする。

(4) 監事は総会において会員の中から選出する。
《名誉会長及び顧問、相談役の設置》

名誉会長及び顧問

本会に名誉会長及び顧問、相談役を置くことができる。

二 名誉会長は本郷学園理事長にこれを委嘱する。

三 顧問は本郷学園名誉校長及び校長並びに本会会長経験者にこれを委嘱する。

四 相談役は副会長、理事、監事の経験者の中より会長がこれを委嘱する。

《役員の仕事》

第九条 役員は次の任務を行う。

- (1) 会長は会を代表して会務を総括執行する。
- (2) 副会長は会長を補佐し会長事故あるときは、副会長間において定める順位により会長事務を代行する。
- (3) 理事は理事会に出席して本会の運営に参画する。
- (4) 監事は会計を監査する。又、理事会及び運営委員会に出席し意見を述べることができる。
- (5) 理事及び監事は相互に兼ねることはできない。
- (6) 顧問、相談役は会長の要請により会議に出席する。

《役員の仕事及び解任》

第十条 役員の仕事は三年とする。ただし再任は妨げない。

二 補充により選出された役員の仕事は三年間の当該任期の残任期間とする。

三 前第一項、第二項にかかわらず、役員は次期役員の仕事は出日までは、なお、その任務を行う。

四 会長は役員が同窓会の役員としてふさわしくない行為を行った場合、又は特別の事情がある場合には、副会長と協議のうえ当該役員を解任することができる。

◆ 第四章 会議 ◆

《会議》

第十一条 本会が行う会議は総会、理事会、運営委員会とする。

二 会議の議長は会長がこれにあたる。

《総会》

第十二条 定期総会は毎年一回、事業年度終了後三か月以内に開催し、次の事項を審議し議決する。

- (1) 事業計画及び収支予算の決定

- (2) 会則の改正
 - (3) 理事の承認並びに監事の選出
 - (4) 事業報告及び収支決算の承認
 - (5) その他本会の運営に関する重要事項
- 二 会長は理事会の議決により臨時に総会を招集することができる。

《理事会》

第十三条

理事会は会長の要請もしくは理事の過半数の請求により開催する。

- 二 理事会は次の事項を審議し議決する。

- (1) 会長の選出
- (2) 第五条第2号に該当する会員の承認
- (3) 総会の議決した事項の執行
- (4) 総会に付議すべき事項
- (5) 運営委員会より付議された事項
- (6) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

《運営委員会》

第十四条

運営委員会は会長及び副会長、本会の事業を担当する理事で構成する。

- 二 運営委員会は会長の招集によって開催し、本会の日常の運営にあたる。

第十五条 第十二条第一項並びに第十三条第二項にかかわらず、緊急を要する事案は運営委員会において処理し、事後、理事会の承認を得るものとする。

◆ 第五章 事業及び議決 ◆

《事業の遂行》

第十六条

会長は、企画及び会誌の発行、会計、庶務等の副会長の担当を定め、かつこれを補佐する理事を指名する。担当副会長は理事の協力を得て本会の事業を行う。

《事務取扱者》

第十七条

本会の事務を処理するため事務取扱者を置く。担当者は運営委員会委員の中より会長が委嘱する。

《議決》

第十八条

会員は総会において発言権、議決権を有する。

- 二 総会、理事会の議決は出席者の過半数をもって決する。可決の場合には議長が決める。

◆ 第六章 会計 ◆

《事業年度》

第十九条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終わる。

《事業計画及び収支予算》

第二十条

本会の事業計画書及び収支予算書は会長が作成し、総会の議決を得なければならない。ただし総会までの間は理事会の議決によることを妨げない。

《事業報告及び収支決算》

第二十一条

本会の事業報告書及び収支決算書は、会長が事業年度終了後遅滞なく作成し、監事の監査を経たうえ、総会の議決を得なければならない。

《会計》

第二十二条 本会の経費及び事業資金は次をもって充当する。

- (1) 入会金
- (2) 会員の年会費
- (3) 利息収入
- (4) 寄付金品

二 いったん納入した金品は一切返還しない。

第二十三条 会員は年会費を二口式千円として二口以上を毎年納付するものとする。

二 卒業時の入会金は壹万円とする。

◆ 第七章 会則の改正 ◆

第二十四条 本会則は総会において出席会員の三分の二以上の賛成を経て改正することができる。

◆ 付則 ◆

本会則は平成十五年六月二十一日より施行する。

本改正会則は平成二十二年六月十九日より施行する。ただし第二十三条第二項については平成二十三年度より実施する。

以上

本郷学園同窓会
会費納入者一覧

2020年(令和2年)

3月31日現在

卒業同期 氏名(敬称略)

大野 勝弘	本間 勇	滝田 智久	高橋 實	下川 敬朗	貝塚 明久	浅原 義久	野木 惣市	阿出川 義男	中 19	志田 芳久	渡辺 信夫	森 正徳	長谷川 忠也	笠原 栄治	今里 隆	新井 保文	島田 公雄	佐藤 元徳	阿出川 昭治	和気 修	尾前 広	小永井 暹	坂井 溢郎	根本 卓光	勝 敬二	橋 正道	景山 正隆	太田 恭二	1311 7	市川 雄一	笹岡 武徳	卒業同期	氏名(敬称略)	中 20	市川 恒雄	久保 政義	橋本 公成	大塚 忠	羽山 健児	大塚 康夫	佐藤 昌雄	田島 利男	宮本 良一	根本 幹弘	柄澤 喜市	井筒 千秋	堀井 幸次郎	小倉 雅文	坂野 重一	櫻井 泰	瀨川 澄男	豊嶋 敬司	羽生 銜佑	宮入 貞雄	遠藤 巨良	坂田 実	長崎 一	根本 強	光安 伸夫	山内 英夫	石川 達夫	北見 尹	山口 秀雄	地曳 秀雄	齊藤 邦衛	八嶋 政臣	渡邊 武男	片桐 幸一郎	谷川 洋明	山崎 利恭	井沢 清	漆間 秀雄	高 6	篠 喜三郎	寺田 栄一	中山 壽夫	根立 光夫	柏村 喜徳郎	後藤 順夫	霜越 信三	高木 桂三	松本 幸司	奥村 茂	駒井 隆行	小林 金則	鈴木 惣一郎	津久田 愛之助	中村 義一	渡辺 昭義	香森 哲也	市川 錦次郎	益川 雄治	秋元 幹夫	清水 尚敏	鈴木 秀男	高橋 三郎	福原 信夫	山内 周	宮崎 靖司	五十嵐 資幸	大野 俊広	小室 能広	三村 孝一	南谷 修	内村 光孝	古屋 勝正	藤巻 健三	渡邊 茂明	小幡 昌久	小野寺 博	木塚 順夫	新澤 米次	高 8	長澤 秀幸	深澤 宏之	山本 賢一	島村 幹雄	西江 正晴	江原 森太郎	田辺 昭	川崎 好明	田中 好明	津原 弘	渡部 長幸	青木 三三郎	井上 栄三郎	岡本 信也	亀井 俊一	上岡 光男	中河 秀行	山崎 昇	八木橋 実	佐々木 範行	泉澤 賢一	林田 秀明	田中 有弘	福住 輝男	熊木 宏治	市倉 洋一	錦 孝治	大槻 勝英	西島 輝夫	山本 達雄	赤塚 典弘	飯田 雅幸	江原 稔	竹村 義教	伊奈 信哉	亀井 忠雄	高 9	木村 尤一	高好 俊一	戸口 素男	越路 國男	久保 義雄	中村 久	杉本 繁	齊藤 毅	明石 安邦	大島 康臣	方波 見茂	高橋 国夫	阿出川 信夫	相川 清	鴨下 清弘	野間口 正機	山田 英昭	渡辺 則綱	池田 雅彦	江田 清	細谷 弘	荻原 健一	新 安雄	倉田 隆義	高田 勝義	笹岡 大	杉山 雅一	峯岸 桂介	佐々木 邦雄	佐藤 仁	田村 敏幸	上島 邦光	林 俊輝	上田 正一	杉山 進	高橋 修一	野田 祐二	山田 隆	四家 文憲	高 10	高 11	高 12	高 13	高 14	高 15	高 16	高 17	高 18	高 19	高 20
大野 英治	内山 正敏	飯沼 誠次	植山 健一	中村 博	齊 慎	木下 茂男	若山 裕二郎	沼尻 卓	沼尻 卓	若山 裕二郎	北原 照久	上島 邦光	木下 茂男	齊 慎	中村 博	植山 健一	飯沼 誠次	内山 正敏	大野 英治	倉持 文雄	宮沢 正喜	石津 彰三	飯郷 勝彦	小倉 義雄	榎原 康夫	櫻井 利雄	齊田 喜三郎	滝本 喜三郎	村井 文一	吉尾 正照	浅井 俊一	根木 克人	根木 克人	石原 輝久	山際 清	石井 幸雄	湯波 裕	黒塚 秀雄	貝塚 正人	野間口 正機	渡辺 則綱	池田 雅彦	江田 清	細谷 弘	荻原 健一	新 安雄	倉田 隆義	高田 勝義	笹岡 大	杉山 雅一	峯岸 桂介	佐々木 邦雄	佐藤 仁	田村 敏幸	上島 邦光	林 俊輝	上田 正一	杉山 進	高橋 修一	野田 祐二	山田 隆	四家 文憲	高 20	倉持 文雄	宮沢 正喜	石津 彰三	飯郷 勝彦	小倉 義雄	榎原 康夫	櫻井 利雄	齊田 喜三郎	滝本 喜三郎	村井 文一	吉尾 正照	浅井 俊一	根木 克人	根木 克人	石原 輝久	山際 清	石井 幸雄	湯波 裕	黒塚 秀雄	貝塚 正人	野間口 正機	渡辺 則綱	池田 雅彦	江田 清	細谷 弘	荻原 健一	新 安雄	倉田 隆義	高田 勝義	笹岡 大	杉山 雅一	峯岸 桂介	佐々木 邦雄	佐藤 仁	田村 敏幸	上島 邦光	林 俊輝	上田 正一	杉山 進	高橋 修一	野田 祐二	山田 隆	四家 文憲	高 20																																																																																													

高 48 高 47 高 46 高 45 高 44 高 43
 稻生 中村 香取 青江 山崎 涌井 原聰 近藤 松井 川上 津田 守部 久保村 朱賢太 入谷 順 木村 秀樹 田川 聖 伊藤 正規 藤田 清志 野口 拓栄 今井 仁 添田 浩史 吉田 永弘 伊藤 良介 今井 孝幸 上原 弘行 戸塚 貴之 大樫 貴之 中村 歩希 中村 聡志 藤田 恵輔 田村 伸也 藤原 潤一 吉川 裕一 花田 憲彦 小長谷 賢治 石本 健太郎

高 54 高 53 高 52 高 51 高 50 高 49
 中村 健一 西島 章夫 根岸 達哉 後藤 泰治 小藤 寛之 長島 克弥 中井 秀昌 鈴木 昌宏 坂本 崇宏 向井 崇平 藤本 耕平 上村 敦 猪越 正直 高野 圭 山本 健太郎 古島 剛 保森 快典 堀越 亮 滝澤 一晴 新井 亮輔 梶野 貴経 宇田 順也 中澤 利幸 中澤 松之進 佐藤 英明 二橋 哲史 新村 光央 網島 宗介 豊川 浩成 森山 将崇 安井 督 堀 洋平 町田 健 立川 嘉久 中溝 健晴 薄井 健吾 林 誠吾 板橋 寿和

高 59 高 58 高 57 高 56 高 55
 廣瀬 村原 梅田 木下 田中 清水 山本 池田 宮川 石村 谷口 池田 宮本 宮本 新見 梶 雄司 船渡川 俊宏 後藤 隆徳 卯坂 潤一郎 菅原 一輝 西村 利来 山本 崇史 塚田 匡 大河内 伸剛 新村 佳史 大塚 真弘 小泉 孝人 戸澤 信太郎 堀越 周仁 北村 篤宏 大澤 思朗 小泉 敏吾 和田 敏治

高 64 高 63 高 62 高 61 高 60
 辺見 山口 篠田 木塚 三好 青木 兵頭 金 晟徹 伊藤 健太 平田 雅俊 福嶋 祐樹 小林 祐賢 大澤 亜希良 南方 宙大 森下 弘基 町田 修 渡邊 貴之 志村 慎也 杉浦 彰 加藤 豊則 築山 周 小穴 泰裕 山本 陸 藤井 翔太郎 鳥居 暁 清水 宏 宮崎 成輝 吉田 直哉 吉木 玲生 松丸 大輝 久保 展昭 林 一輪 福田 修也 小泉 隼人 吉貴 大輔 松本 康佑

高 67 高 66 高 65
 大嶋 青木 山崎 鈴木 飯島 遠藤 駒野 富樫 村田 藤田 山岸 有田 松尾 松本 下川 平井 古谷 近藤 橋本 佐藤 松永 川崎 渡邊 井上 新井 須藤 小林 櫻井 清水 吉田 正木 松丸 久保 林 福田 小泉 宮原 松本 一起
 優介 瑞樹 文也 穰 雅之 富樫 湧紀 捷行 村田 大輝 山岸 清剛 山本 充志 洋紀 松本 一朗 下川 有生 古谷 龍一 近藤 直人 橋本 隆太 佐藤 恵太 松永 啓佑 川崎 浩平 渡邊 紘也 井上 智皓 新井 達也 須藤 大介 小林 弘樹 櫻井 幹太 梅田 諒 西山 朔 沼尻 嵩生 申 俊利 内藤 亮 望月 秀人 河野 遼一 幸田 陽 横澤 智大 宮原 正知 松本 一起

高 70 高 69 高 68
 北川 裕貴 瀨川 森志 岩淵 友哉 川本 晃大 鈴木 凌 保島 紀信 河間 雄佑 天満 瑞貴 伊藤 武弘 蜂谷 武弘 永山 将太郎 島中 晃平 渡邊 諒 立花 光陽 瀧雄彦 光井 直哉 須賀 万貴 安田 直樹 岩井 惇一郎 高橋 修明 芹澤 礼人 高橋 貴裕 鈴木 貴裕 萩原 和貴 峯崎 創平 緑川 響介 森可智 加藤 隼人 門倉 駿 飯田 翔梧 佐々木 魁 丸山 雅貴 服部 研人 菅谷 昌久 横山 雅人 木村 洋一 星野 翔 北村 俊徳 桂影 寿 安藤 研吾

小林 小月
林 凜太郎
高田 賢
西井 田 冨
石井 亮丞
梶原 龍之佑
清水 啓太
松本 篤
宮本 英俊
横枝 諒祐
井田 光祝
杉浦 育美
青柳 慶人
田中 大貴
金光 理玖
小林 拓生
神野 広希
木下 祐志
伊藤 嘉希
井上 寛文
光井 友哉
有山 泰正

高 71

小野 健太
野澤 勇祐
脇本 智郎
大神 敬尚
佐藤 脩歩
平井 泰知
廣瀬 由明
安田 杜佑
倉田 悠生
佐藤 千彦
島田 耕成
白居 幸希
外山 廉
橋本 千聖
緑川 詠介
伊藤 竜輔
島田 大輝
鷺島 優輝
岩佐 文哉
田澤 宏和
奈良 禄太郎
高橋 優輔

討 報

謹んでご冥福をお祈り致します
同窓会にご連絡のあった方を掲載しております

中 3 若松 三郎
中 1514 板垣 一夫
中 17 小野 久彰
中 18 加藤 宣夫
高柳 昭三

丹羽 逸郎
谷田部 一郎
秋山 和男
伊東 賢二
高橋 孝昌
谷田部 一郎
望月 敏郎
相島 康彦
伊藤 守夫
佐々木 啓之
高橋 民次郎
小池 弘祐

中 20 宮川 武久
中 21 田村 正芳
中 21 土屋 義治
中 21 宮内 達雄
中 23 高橋 三徳
中 23 押本 順弘
中 23 小宮 民男

高 222116 宮川 武久
高 222116 田村 正芳
高 222116 土屋 義治
高 222116 宮内 達雄
高 222116 高橋 三徳
高 222116 押本 順弘
高 222116 小宮 民男
高 222116 大蔵 利文
高 222116 石井 累士
高 222116 渡邊 昌俊
高 222116 岡田 博徳

回期等 不明者
スズキ ヤスヨシ
ワタナベ ヨシユキ
イシヤマ ケンジ
TAKESHI YAMA
092 70カイセイ フ
ネンカイヒ NO.201

納入者数 777人

※万全を期したつもりですが、万が一、お名前の漏れや誤字、脱字などの間違いがありましたらご容赦ください。FAXでご一報いただければ幸いです。

FAX
0339170007

編集後記

「本郷の先輩たち」は、2013年より本郷祭（文化祭）の同窓会パネル展示として企画され、その後も毎年展示を続け、これまで紹介してきた先輩方は44人になりました。そして、2014年に紹介した方々からは、そのつど「銀友」に転載しております。

国際的に活動する美術家や人間国宝の能楽師、オリンピック水泳の金メダリストをはじめ、各界で活躍する多士済々の卒業生に接し、改めて、100年になんなんとする「本郷」の伝統の重みをずっしりと感じています。しかも、どなたも共通して「本郷愛」をもっておられることに感動しています。

「もう年だから」、「身に過ぎる」と、はじめは辞退される方もおりました。しかし、最終的には快く応じてくださり、依頼した全員の方々に協力していただきました。残念ながら「銀友」掲載後に亡くなられた方もおられますが、皆様に心より御礼申し上げます。

(Y)

本郷学園校歌

むかしは植樹の名どころ染井
 とりわけ紅葉の錦に知らる
 今は学園ここに開けて
 国の柱の苗木を育つ
 ああわれら 誇りの本郷学園
 ああ柱苗木の青年われら
 つとめば未来に何えせざらむ
 さらば固めよ処世のもとい
 こころは剛毅に身は強健に
 ああわれら 誇りの本郷学園

作詩 坪内逍遙
 作曲 信時 潔

